

STEP 3

An illustration of a man and a woman standing next to a large white number 3. The woman is on the left, wearing a purple top and yellow pants. The man is on the right, wearing a green jacket and grey pants, pointing upwards with his right hand. The background is a solid green color.

未来プラン

地域と、ひとと、
くらしと、健康と、
しごとと。
5つの未来を
具体的に描きます。

富岡町でもっと快適に、もっとおだやかに、
もっと自分らしくすごすために。
地域・ひと・暮らし・健康・しごとの
5つのプランごとに目指す姿を描きました。
それぞれのプランがまちに根付き、
互いにつながり、高めあうことで、
富岡らしい未来の幸せを育んでいきます。



計画の体系

「住むほど、関わるほど魅力と愛着が湧くまち」を目指して、5つの柱を考えました。

未来プラン1 地域づくり

人と人、
地域がつながり、
多様な人々の活動
を生み出すまち

- ① 帰還と移住・定住の促進…………… P47
- ② ふるさと富岡とのつながりの継続・確保…………… P49
- ③ 交流人口・関係人口の拡大…………… P51
- ④ コミュニティの再構築・活性化…………… P53
- ⑤ 歴史・文化の保護・継承・活用…………… P55

未来プラン2 ひとづくり

こどもも大人も
共に学び・育ち、
文化が
育まれるまち

- ① こどもの居場所づくり、子育て環境の充実…………… P59
- ② 教育環境の充実・確保…………… P61
- ③ 生涯学習・スポーツ・文化芸術の振興…………… P63
- ④ 人権の尊重・男女共同参画・多文化共生の推進…………… P67

未来プラン3 くらしづくり

快適で
安全・安心に
暮らせるまち

- ① 生活環境のさらなる充実…………… P71
- ② 安全・安心の根幹である徹底した除染…………… P75
- ③ 避難指示継続区域の復旧・復興…………… P77
- ④ 防災・防犯・防火対策…………… P79
- ⑤ 環境美化・自然環境の保全・活用…………… P81
- ⑥ 広報力・広聴力の強化…………… P83
- ⑦ デジタル化・行政DXの推進…………… P85

未来プラン4 健康づくり

心も体も健康で、
みんなが社会と
つながりながら
元気に生き生きと
暮らせるまち

- ① 心身の健康づくりの推進…………… P89
- ② 地域医療・介護・福祉の推進…………… P91
- ③ 放射線による健康不安対策…………… P95

未来プラン5 しごとづくり

多彩な
産業が発展し、
みんなが笑顔で
働くまち

- ① 産業の振興・雇用の確保…………… P99
- ② 起業支援、チャレンジ応援…………… P101
- ③ まちのにぎわいづくり…………… P103
- ④ 農林水産業の振興…………… P105

ページの見方

未来プランは10個のコンテンツで構成されています。



1 プラン名

まちづくりのプラン(主要テーマ)です。

2 プランの目指す姿

プランの目標と、基本的な考えを示しています。

3 プランを代表する指標

プランが実現されているかどうかを測る指標です。

4 政策名

目指すべき姿を実現するための方針です。

5 関連するSDGsの取り組み

プランに関連するSDGsの取り組みです。

6 政策の目指す姿

政策で目指す10年後の姿です。

7 現状と課題

政策に関わる現状と、解決したい課題を示しています。

8 政策指標

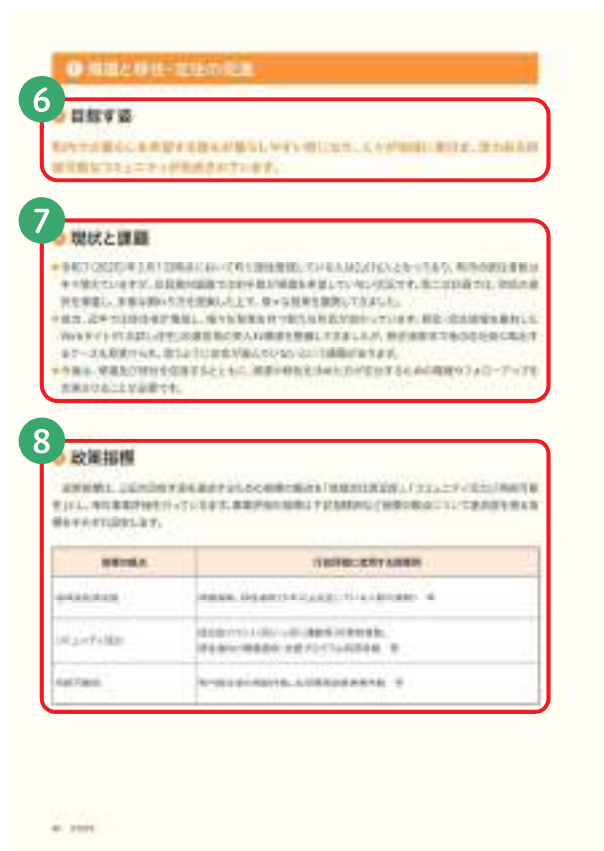
政策の目指す姿の達成度を測る指標です。

9 施策

政策を実現するための取り組み方針です。

10 施策を達成するための取り組み

取り組みの中から主なものを例示したものです。

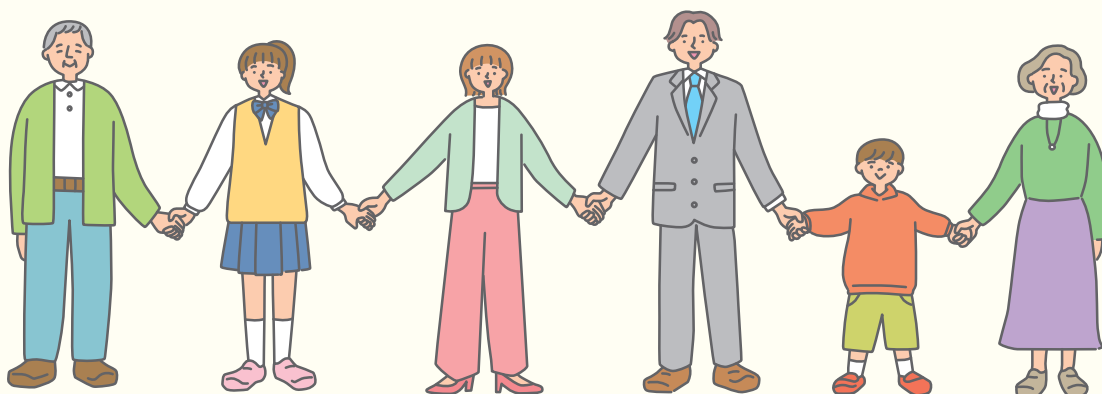


未来プラン1

地域づくり

人と人、地域がつながり、
多様な人々の活動を生み出すまち

年齢や地域を超えて人々がつながり、一人ひとりの思いを大切にしながら、
誰もが“ずっと住みたい”、“もっと訪れたい”と感じる、
笑顔と活力に満ちた幸せなふるさとをみんなで育みます。



地域づくりを代表する指標

何らかのコミュニティに
参加している、
できると感じている町民の割合

地域活動施設の利用率

若年層(20～40代)の
人口回復率

政策

- ① 帰還と移住・定住の促進 P47
- ② ふるさと富岡とのつながりの継続・確保 P49
- ③ 交流人口・関係人口の拡大 P51
- ④ コミュニティの再構築・活性化 P53
- ⑤ 歴史・文化の保護・継承・活用 P55

このテーマに特に関連の深いSDGs



① 帰還と移住・定住の促進

▶ 目指す姿

町内での暮らしを希望する誰もが暮らしやすい町になり、人々が地域に根付き、活力ある持続可能なコミュニティが形成されています。

▶ 現状と課題

- 令和7(2025)年3月1日時点において町に居住登録している人は2,616人となっており、町内の居住者数は年々増えていますが、住民意向調査では約半数が帰還を希望していない状況です。第二次計画では、市民の選択を尊重し、多様な関わり方を提案した上で、様々な施策を展開してきました。
- 他方、近年では移住者が増加し、様々な背景を持つ新たな市民が加わっています。移住・定住情報を集約したWebサイトや「お試し住宅」の運営等の受入れ環境を整備してきましたが、移住後数年で他の自治体に転出するケースも見受けられ、思うように定住が進んでいないという課題があります。
- 今後は、帰還及び移住を促進するとともに、帰還や移住を決めた方が定住するための環境やフォローアップを充実させることが必要です。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「地域定住満足度」、「コミュニティ活力」「持続可能性」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
地域定住満足度	帰還者数、移住者数(5年以上定住している人数の推移) 等
コミュニティ活力	自治会イベント(花いっぱい運動等)の参加者数、 移住者向け情報提供・支援プログラム利用件数 等
持続可能性	町内居住者の相談件数、生活環境改善事業件数 等

施策1

帰還の促進・支援

帰還希望のある町民が安心して戻ることができるよう、帰還準備と町内生活の支援を行います

ふるさと富岡の
魅力的な情報発信

主な取組

- 広報紙の紙面の充実化
- Webや動画等を活用した多様な発信

町内での暮らし等にかかる
支援

主な取組

- ニーズに応じた公営住宅等の住宅施策の継続
- 避難先から町に住宅を移転する経費等の支援

相談体制の
充実

主な取組

- 町内生活や就労、コミュニティ等に関する各種相談の受入れ
- AIシステム等を活用したWeb対応の充実

施策2

移住の促進

移住希望者に選んでもらいやすい受入環境を整えます

戦略的な
情報発信

主な取組

- 移住専用サイトの魅力的な展開
- 幅広い世代に向けたSNS等による情報発信
- 様々な媒体を活用した効果的な発信
- 町を知ってもらう機会の創出・プロモーションの強化

移住希望者の
受入れ環境の強化

主な取組

- 相談窓口の設置やコーディネーター等の配置、連携による各種支援
- 魅力的な暮らし方の提案・サービスの提供

多様な暮らし方の
促進

主な取組

- 空き家・空き地の利活用促進
- 二地域活動・居住、U・Iターン、ワーケーション等向けの住環境の確保支援
- 地域おこし協力隊の積極的な活用

施策3

居心地よい生活環境に向けた支援の強化

帰還や移住を決めた方が、安心して暮らせるように支援を積極的行います

定住に向けた
相談体制の拡充

主な取組

- 相談窓口の設置やコーディネーター等の配置、連携による各種支援(再掲)
- 定期的な聞き取り等によるフォローアップの強化
- AIシステム等を活用したWeb対応の充実(再掲)

地域との
交流の場等の創出

主な取組

- 地域との関わりや愛着創出のための交流イベントやコミュニティの支援
- 地域活動等の情報発信、参加機会の提供

定住支援制度の
充実

主な取組

- 帰還・移住後の生活に必要な情報やサポートを提供する定住支援プランの策定
- 帰還者、移住者への住宅取得のための支援

② ふるさと富岡とのつながりの継続・確保

▶ 目指す姿

町内に住んでいる人も、離れている人も、町との関わりが継続されており、ふるさととしての愛着と誇りが育まれています。

▶ 現状と課題

- 町では、複合災害による町外避難者への支援を行っていますが、避難の長期化や町外避難者の高齢化に伴いニーズが多様化しています。
- また、町外に避難されている方の中には、避難先から町内での行政区の活動やボランティア、仕事など、様々な関わりを持っている方もおります。
- 今後も行政サービスの継続やふるさと富岡との関わりを持てる場や機会の創出が必要です。さらに、こういった関わり合いを増やしていくために「住むこと」だけではなく、町に関わることができる仕組みや機会を創出していくことが求められています。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「町内居住者と町とのつながり」、「町外で生活している町民と町とのつながり」「町民以外の町と関わる人々と町とのつながり」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
町内居住者と町とのつながり	町内で実施されるイベント参加者数、町民向け情報発信媒体アクセス数 等
町外で生活している町民と町とのつながり	町主催イベント参加者数 等
町民以外の町と関わる人々と町とのつながり	ふるさと納税寄付件数、インターンシップ等学生受入れ人数 等

施策1

町とのつながり継続・醸成

町と関わり続けられる機会と場を継続し創出します

ふるさと富岡
に関する情報発信

主な取組

- 広報紙の紙面の充実化(再掲)
- Webや動画等を活用した多様な発信(再掲)

町に関わる機会の
創出・確保

主な取組

- イベントなど町と繋がる機会の確保・参加支援
- Web等遠隔で参加できる機会の提供
- 町民同士の交流の場所確保・支援

町外での
暮らしづくり支援

主な取組

- 民間団体等と連携した生活支援
- 避難者受入自治体との協力・連携体制の継続

施策2

ふるさと応援の仕組み・機会づくり

観光・レジャー、文化・教育活動、仕事、ボランティアなど、「住む」以外で町に関わる仕組みや機会を創出します

ふるさとを応援
できる仕組みづくり

主な取組

- 地域活動やボランティア等の機会の創出、情報発信
- 町を応援・支援できるコミュニティへの加入促進

多様な関わり方の
創出

主な取組

- 多様なテーマ・コンテンツの地域イベント等の開催・開催支援
- ふるさと納税等を通じた町への関わりの創出



③ 交流人口・関係人口の拡大

▶ 目指す姿

町に多くの人々が訪れ、様々な交流機会を通じて町の魅力が広がり、町ににぎわいが創出されるとともに、人と人とのつながりが増えています。

▶ 現状と課題

- 町では、ホープツーリズムやインターンシップ(職業体験)等の受入れを通じて、各方面に情報発信を行っています。
- しかし、宿泊施設や交通手段、多言語対応等の受入れ環境が十分ではないため、交流人口の拡大が難しい状況です。桜や海などの地域資源や特産品は存在しますが、それらを活用した誘客コンテンツの開発が不足しており、一時的な誘客に留まっています。
- また、大学生による研究活動やボランティア活動を通じて町に興味・関心のある人々が一定数いますが、町民等との交流機会が少なく大学生との関わりが途絶えることが多いような状況です。
- 今後は、持続的な観光客の誘致に向け、地域資源を活かした観光コンテンツの魅力向上や継続的な関係の構築が求められています。さらに、大学生だけでなく、企業やビジネスパーソン、近隣地域の方々など、関わりを持つ方の幅を広げるとともに、継続的な関わりをもってもらう取り組みが必要です。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「交流人口の拡大度」、「交流人口の定着度」、「関係人口の拡大度」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
交流人口の拡大度	観光入込客数、地域資源を活用したイベント開催数、観光関連施設の利用者数 等
交流人口の定着度	
関係人口の拡大度	SNSフォロワー数、Webサイトアクセス数 等

施策1

交流人口の創出

地域資源を活用し、魅力ある地域づくりを推進します

受入れ環境の整備

主な取組

- 町内での移動・周遊手段の確保
- 町内の多言語化やバリアフリーの推進
- 観光・交流施設の整備と多機能化

町内外の人々との交流機会の創出

主な取組

- SNSや広報媒体を活用した国内外への町の認知度向上活動
- 対象者別の情報発信
- 地域イベントや観光、視察や学びの機会の創出
- 地域交流体験活動の提供

新たな交流需要の開拓、付加価値づくり

主な取組

- 観光資源やコンテンツの発掘・活用、サービスの開発
- テーマや対象者別の交流イベント・ツアーの開催
- ワークーションの推進に向けた環境整備、仕組みづくり
- 来訪の維持に向けたしなやかづくり

施策2

関係人口の創出・持続化

町に興味・関心を持つ方々に様々な関わり合い方を提供します

学生との関わりの創出

主な取組

- 教育旅行や研究活動等の積極的な受入れ
- スポーツ等を通じた継続的な交流機会の創出
- 町と学生の連携により取り組む活動や事業の立案・実施
- 学生向け支援制度の拡充

企業やビジネスパーソンの関わりの創出

主な取組

- サテライトオフィス機能の積極的な活用
- 企業向け研修等の受入れ
- 企業向けアプリの活用促進
- 企業や民間団体等の地域活動の積極的な受入れ

近隣地域からの来訪者の受入れ促進

主な取組

- イベント等の広域連携等による相互情報発信の推進
- 親子やグループ向けのイベントや活動の充実

町に興味がある方の関わりの創出

主な取組

- 地域活動やボランティア等の機会の創出、情報発信(再掲)
- 多様なテーマ・コンテンツの地域イベントの開催支援
- ふるさと納税など町を応援できる仕組みづくり
- 震災伝承や復興にかかるコンテンツの拡充及び発信力の強化



④ コミュニティの再構築・活性化

▶ 目指す姿

様々な人や団体が自然に交流できるような場やきっかけができており、地域におけるつながりが強いコミュニティがつくられています。

▶ 現状と課題

- 複合災害以前は住民同士の交流や地域行事が盛んに行われていましたが、原子力災害起因の全町避難により多くが途絶えてしまいました。そのような中、町内居住者は増えており、帰還した町民もいるものの、依然として町民の多くが町外に避難しており、コミュニティの希薄化が深刻です。
- コミュニティの構築・活性化に向けては、帰還した町民及び新規移住者等のコミュニティ形成も課題となっています。
- 今後は、町民も集える場や、活動できるきっかけづくりが必要です。さらに、地域活動への参加等により各個人の協力意識と活動への理解を深めるとともに、地域のリーダー的存在の発掘と育成、誰もが参加しやすく、つながりを持てる地域社会を形成することが求められています。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「集いの場・コミュニティの多様性」、「コミュニティ活力」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
集いの場・コミュニティの多様性	サークル団体数、地域イベント開催数 等
コミュニティ活力	地域おこし協力隊の配置数、新規地域活動団体数 等

施策1 交流できる機会づくり

助け合いや支え合いの風土の再構築に向け、多様な方が交流できる機会を創出します

日常的な交流の促進

主な取組

- 挨拶や声掛け等、顔の見えるコミュニティづくりの促進
- (こどもや独居高齢者等への) 地域の見守り活動の推進

誰もが気軽に集える機会の創出

主な取組

- 公共施設等のさらなる活用機会の創出
- 町内にある公共・民間施設等の情報発信
- 交流イベントの開催及び開催支援

共通の関心を持つ人たちと交流する機会の創出

主な取組

- 多様なコミュニティ、ボランティアの推進
- 既存の活動や取り組みに関する情報発信

施策2 支え合いの地域づくり

地域で活躍する人材の育成と、誰もが関わりやすい仕組みを整え、地域活動への参加を促します

町民と行政の協働による地域の特色を活かしたまちづくり

主な取組

- 団体運営の伴走や新規団体の発足支援
- 官民連携によるまちづくり活動の促進
- 地域内での定期的な情報共有の場の提供
- 相談・支援体制の充実

地域への誇りと愛着及び地域コミュニティの醸成

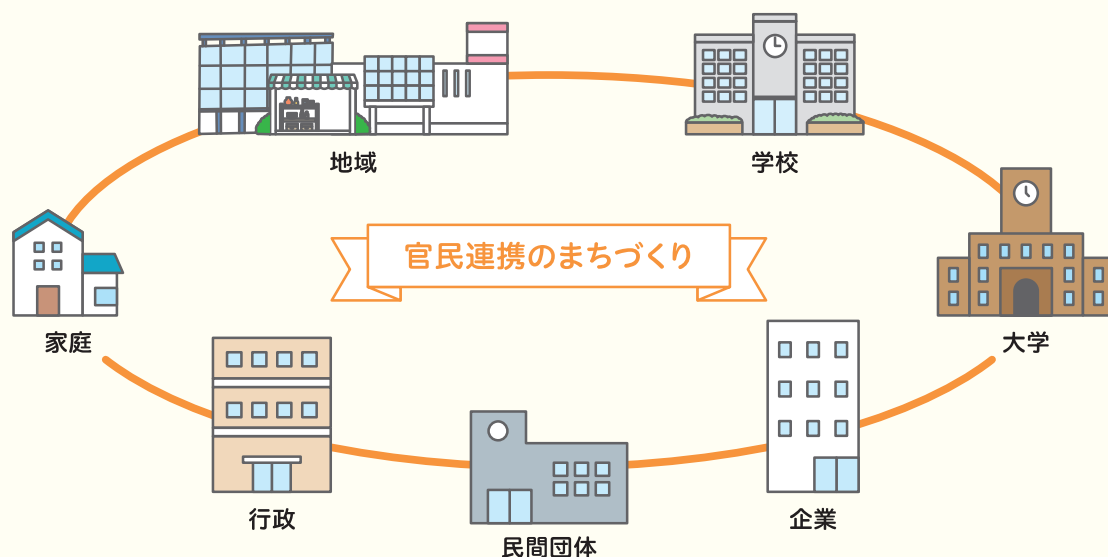
主な取組

- 地域を隔てない地域コミュニティの活性化に向けた支援
- 地域のリーダーやコーディネーター役になる人材の育成支援

地域活動への参加促進

主な取組

- 町民や団体同士の連携による地域活動への参加促進
- 地域活動に関する情報発信や意識啓発



⑤ 歴史・文化の保護・継承・活用

▶ 目指す姿

地域の歴史や文化が大切に保護・継承され、それらを活用して新たな価値を生み出し、地域の誇りとして次世代へ引き継がれています。

▶ 現状と課題

- 複合災害前は地域の祭りが盛んに行われ、町民により継承されてきましたが、複合災害以降は後継者が不足し、伝統や文化の継承が危ぶまれています。
- 歴史を継承していくために、専門家による歴史文化の調査は行われていますが、郷土史家や研究職が不足しており、新たな史料の発掘などが困難な状況です。
- 今後は、町にある社会教育資源の掘り起こしと活用を含め、貴重な歴史や文化を保護・活用することに加え、歴史を守り、受け継いでいく人材の確保や育成が必要です。
- 「とみおかアーカイブ・ミュージアム」では、地域資料や震災遺産が収蔵・展示され、来場者数は増えているものの、さらなる集客を目指し、より多様な展示や魅力的なイベントの企画が必要です。
- 今後は、次世代へ歴史を継承するために、調査研究等に加え、教育や地域活動を通じて伝統文化や歴史を学ぶ機会を提供していく必要があります。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「歴史・文化的資源の保護・継承状況」、「歴史・文化的資源の活用度」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
歴史・文化的資源の保護・継承状況	文化施設来場者数、歴史・文化関連展示会・イベント開催数 等
歴史・文化的資源の活用度	学校での地域学習プログラム実施数、伝統文化継承活動参加者数 等

施策1

歴史・文化の保護と活用

町の貴重な歴史や文化を保護し、町の魅力を発信していきます

町の伝統行事や
民俗芸能の保存、継承

主な取組

- 地域資料の収集・展示
- 伝統的な祭りや文化芸能の復興

伝承者の確保・
育成

主な取組

- 伝承者育成プログラムの開発
- 伝承活動の普及・啓発
- 体験型学習や住民参加型コンテンツの実施

社会教育資源の
掘り起こしと活用

主な取組

- 教育資源の見直しとPR
- 町所有文化財の活用方法の見直しとPR
- 観光ルートの整備やガイド付きツアーの実施

施策2

歴史の次世代への継承

次世代へ歴史を継承するため、教育や地域活動を通じて伝統文化や歴史を学ぶ機会を提供します

歴史・文化資源の保護活用
及び調査研究

主な取組

- 文化財マップの精度向上と調査の継続
- 地域の博物館、資料館等が所蔵する富岡関連史資料の全体調査

町史編纂へ向けた
資料収集・体制確保

主な取組

- 記録や保存文書からの起稿
- 専門家や外部人材等による協力体制の確保

継承機会の
創出

主な取組

- 教育・啓発活動の展開
- 地域歴史イベント、企画展等の展開
- 歴史的な現場学習や体験型授業の実施
- コンテンツの充実
- 震災経験と教訓の継承



町が伝承すべき震災の記憶と記録

平成23(2011)年3月11日に発生した複合災害により、本町は同年3月12日に全町避難を余儀なくされ、約16,000人の町民が全国各地へ避難し、長期にわたる避難生活が始まりました。

それから6年の月日が経ち平成29(2017)年4月1日に、帰還困難区域を除く避難指示解除により町内に戻ることができるようになり、令和5(2023)年4月1日には、桜並木を含む夜の森地区の特定復興再生拠点区域が解除となりました。

さらに、令和5(2023)年11月30日には、避難指示が継続している小良ヶ浜・深谷地区の点・線拠点も解除になりました。

平成29(2017)年の避難指示解除から少しずつではありますが、町内居住者も年々増加し、令和7(2025)年3月現在で2,616人が町内で生活しており、復興・再生への歩みを進めています。



これまでの町の歩みについては「富岡町東日本大震災・原子力災害の記憶と記録」、「富岡町東日本大震災・原子力災害の記憶と記録Ⅱ」で見ることができるっぴ！

詳細情報は以下のQRコード他、町ホームページからもご覧いただけます。



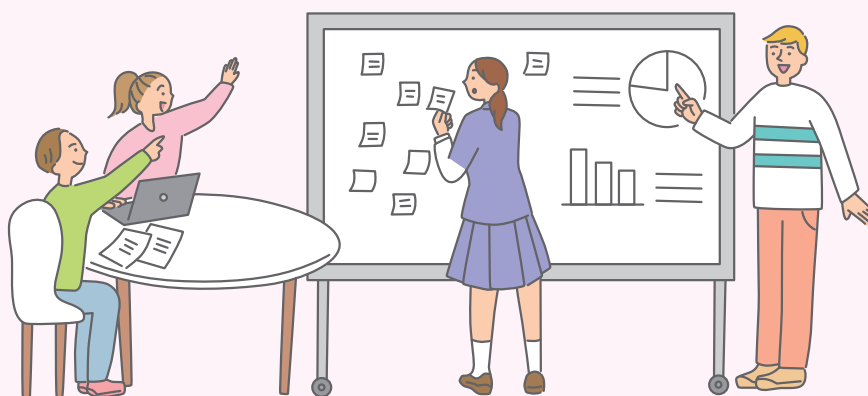
複合災害の記憶を風化させることなく、次世代に継承しながら、
富岡町の復興・創生に取り組んでまいります。

未来プラン2

ひとづくり

こどもも大人も共に学び・育ち、
文化が育まれるまち

自分らしい人生を送れるように、富岡らしい豊かな価値が芽吹くように、
こどもから大人まで「学習する」「体験する」機会を充実させ、
一人ひとりが成長するきっかけを創出します。



ひとづくりを代表する指標

こどもから大人まで
学べる環境があると
感じる町民の割合

文化活動団体数
と活動頻度

子育て支援サービス
の利用率と継続率

政策

- ① こどもの居場所づくり、子育て環境の充実 P59
- ② 教育環境の充実・確保 P61
- ③ 生涯学習・スポーツ・文化芸術の振興 P63
- ④ 人権の尊重・男女共同参画・多文化共生の推進 P67

このテーマに特に関連の深いSDGs



① こどもの居場所づくり、子育て環境の充実

▶ 目指す姿

子育て世帯が増え、子育て支援サービスが充実し、地域全体が子育てを支える環境になっています。

▶ 現状と課題

- 町内での認定こども園の開園や小中学校の再開以降、こどもの数は徐々に増加しています。しかし、町内での子育て環境に不安を感じる家庭もあり、こどもを生み育てる環境づくりや相談体制の充実が課題です。今後は、妊娠から出産・子育てまで、関係機関との連携を強化しながら、継続的・包括的な支援が必要です。
- また、複合災害前には多様な学び・遊びの場や機会があり、こどもがのびのびと学び育っていました。しかし、複合災害後は、町内には自由に遊べる場や習い事の場が乏しくなり、家と学校以外のコミュニティを作る機会が少なくなっていました。今後は、こどもが学校以外で学べる機会や自宅以外での居場所づくり、多様な活動機会の創出が必要です。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「子育てサービスの水準」、「子育て世帯数」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
子育てサービスの水準	子育て支援センター利用者数、子育て満足度、支援サービス利用率 等
子育て世帯数	町内のこども（義務教育まで）の割合、住民登録上の子育て世帯数、子育て関連施設利用者数 等

施策1

妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援

妊娠から出産・子育てまで、関係機関との連携を図りながら、継続的・包括的な支援を行います

安心して子どもを産み
育てられる環境づくり

主な取組

- 妊娠から出産までの各段階における健診・相談・通院等への支援
- 子育て世代の交流機会の創出
- 地域での子育て支援

継続した支援と
新たな魅力の創出

主な取組

- 各種子育て支援サービスの支援継続
- 教育や生活環境の充実による魅力づくり
- ICTの活用を通じた保育者の業務負担の軽減、保育の質の向上

情報発信及び
相談支援体制の充実

主な取組

- SNSなどを活用した子育て関連情報の発信
- 窓口の集約や民間活力の活用による相談体制の確保
- 相互援助事業の推進
- 産前産後の心のケアや相談等の母子保健の推進

施策2

子どもにとって居心地の良い場所づくり

関係機関と連携し、子どもが安心して過ごせる居場所を提供します

既存施設を活かした
居場所の提供

主な取組

- 地域交流館の利用促進と魅力的な事業展開
- 放課後児童クラブなどの施設や関係機関と連携した利用促進
- 公園(特に大規模な都市公園等)の環境整備と活用
- こどもの居場所やイベント等に関する情報発信

多様な学びや
スポーツ等の機会創出

主な取組

- 地域内外の関係機関との連携による学習やスポーツ等の機会の創出
- 大学等との連携による学びの場の創出
- 民間団体等によるスポーツや文化芸術等の地域ならではの学びの場や機会の創出

自主的な学びを
支援する環境づくり

主な取組

- 教育機会と学習支援による多様な選択の機会の創出
- 学習資源の公開とアクセスの拡充
- 学校や地域との連携による家庭教育の充実
- 新たな居場所づくりの担い手の発掘・確保

地域での
子育て支援

主な取組

- 子育て世代と町民が交流できる場所や機会の充実
- 子育て支援人材の確保と育成
- 地域ボランティアによる学びや遊びの機会等の創出

こどもの安全・
安心の確保

主な取組

- 子どもが安心して過ごせる公園や通学路等の環境整備・維持管理
- 防災教育や安全教室の実施
- 子ども、子どもに関わる大人(保護者、教師等)が「こどもの権利」について学ぶ機会の創出
- こどもの相談先の確保



② 教育環境の充実・確保

▶ 目指す姿

広域的に関係機関が連携し協働することで、すべてのこどもが安心して学ぶことができる環境になっています。

▶ 現状と課題

- 複合災害前は、町内に充実した学校教育と多様な学習機会が提供されており、特に県立富岡高等学校ではスポーツを通じて世界に通用する人材の育成が行われていました。また、教育機関同士の連携や地域コミュニティとの関係も強固で、こどもたちが豊かに成長できる環境が整っていました。
- 小中学校の再開やこども園の開園以降、こどもの数の増加に伴い、一人ひとりに寄り添った教育提供の重要性が増しています。今後は、教育内容のさらなる充実や、教育機関や教育を支える環境の整備、個性に応じた支援の充実が必要です。
- また、近年では大学生のインターンシップや研究活動の受入れを行っていますが、町民との交流や受け入れ先の確保など受入体制にも課題が多く、環境整備も求められています。今後は、関係機関との連携による多様な学びの受入れ・支える環境をつくっていく必要があります。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「初等・中等教育の水準」、「学生活動の場の確保」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標を設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
初等・中等教育の水準	教育施設改修・整備数、特色ある教育プログラム数、個別支援プログラム数 等
学生活動の場の確保	インターンシップ等学生受入れ人数 等

施策1

特色ある教育の展開

特色ある教育資源やカリキュラム(教育課程)を導入し、これからの社会に対応できる人材育成を推進します

きめ細かな指導と
健やかな身体の育成

主な取組

- 児童・生徒に対するきめ細かな指導
- 健やかな身体の育成の強化
- 読書に親しめる機会の充実

時代に即した
教育環境の充実

主な取組

- こどもの防災力向上を目的とした災害や防災教育の充実
- ICT等を活用した学習環境の充実
- GIGAスクール構想の推進

豊かな学びの
機会の提供

主な取組

- 外国語、プログラミング教育の充実
- ふるさと学習の推進
- 近隣教育機関や福島イノベーション・コースト構想、F-REIに関連した学習機会の創出(広域連携施策)
- 探究型学習(教えない教育)の推進と拡充

施策2

教育機関や教育を支える環境の整備

教育環境の充実や既存施設の連携等により、質の高い教育環境を整えます

良好な教育環境の
確保・充実

主な取組

- 施設の適正規模・適正配置の推進
- 人材の確保、体制及び施設整備、維持管理
- 地域における、教職員のための研修・教育支援体制の充実
- 教育活動の一層の高度化
- 地域と大学生の関係構築の促進

教育関連施設の
連携強化・利活用促進

主な取組

- 町内外の教育機関の連携による一体的な教育環境の創出
- 公共教育関連施設の利活用の促進

後期中等・高等教育の継続的な
学びを可能とする環境整備

主な取組

- 町内に居住しながら町外の教育機関に通う学生への支援
- 町内における、後期中等・高等教育の学生の学び・活動・就労の機会の創出
- 町内における高等学校再開に向けた検討

施策3

個々に応じた支援の充実

子ども一人ひとりの多様性を尊重し、個性を伸ばす教育支援を充実させます

創造性を育む
教育の充実

主な取組

- 探究型学習(教えない教育)の推進と拡充(再掲)
- 芸術教育の強化
- 対話能力やリーダーシッププログラムの育成

個々に応じた児童・生徒
への支援の充実

主な取組

- 様々な支援を必要とする子どもへの支援の充実
- 児童生徒を取り巻く諸問題の未然防止や対象児童等の早期発見・支援
- 外国人児童生徒・保護者への支援(会話支援)の充実



③ 生涯学習・スポーツ・文化芸術の振興

▶ 目指す姿

町民が生涯学習やスポーツ、文化芸術活動を通じて互いに交流し、豊かな心と健康な心を育み、活力にあふれています。

▶ 現状と課題

- 生涯学習については、複合災害前は、生涯学習の機会が豊富に提供されており、地域の特性を生かした講座やイベントが活発に行われ、町民同士の交流が促進されることで、地域コミュニティが強化されていました。しかし、現在は健康づくりや工芸、教養に関する生涯学習講座を企画しているものの、参加者は限定的で講座の認知度が高くなく、講師確保も課題であるため、多様なニーズへの対応と機会の提供などが必要です。
- スポーツ環境については、町内には総合スポーツセンターなどの充実した施設がありますが、複合災害以降はこどもや居住者の減少により利用者数は限定的であるため、今後は多くの人が気軽にスポーツに親しめる環境づくりが必要です。
- 文化・芸術については、民間主体の芸術祭や美術館開館の計画が進行中です。しかし、文化・芸術に関わる人は限定的であり町内への浸透には課題があります。今後は、これらの活動を町全体に浸透させ、活性化させていくことが求められています。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「生涯学習・スポーツ・文化芸術の活動力」、「生涯学習・スポーツ・文化芸術の持続性」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
生涯学習・スポーツ・文化芸術の活動力	文化交流センター利用者数、スポーツ関連イベント参加者数 等
生涯学習・スポーツ・文化芸術の持続性	スポーツイベント開催数・参加者数、文化芸術イベント開催数 等

施策1 生涯学習事業の推進

あらゆる世代が生涯にわたり学び続けられる環境を整えます

多様なニーズへの 対応と機会の提供

主な取組

- 幅広い年齢層に応じた生涯学習機会の提供
- サークル活動の推進、支援継続

生涯学習機能の 充実と情報発信

主な取組

- 文化交流センターの機能の充実
- 施設利用方法の分かりやすい情報発信
- イベント等の情報発信強化
- 知識や技能などを有した地域の人材・団体の情報発信



施策2 多様なスポーツ・レクリエーション活動の普及促進

あらゆる世代が楽しめる環境を整備し、生きがいづくりや健康増進を図るとともに、町内外からの誘客・交流機会を創出します

気軽にスポーツに親しめる 環境整備・機会の拡大

主な取組

- 各種スポーツイベントの開催
- 総合スポーツセンターの利活用促進
- 周辺自治体の施設との連携や機会の創出による新たな事業展開
- 部活動やサークル等への町民・団体等の協力者の確保・拡大

スポーツコミュニケーションの 創出

主な取組

- バドミントンなど様々なスポーツ選手によるイベント企画
- 町民と連携・協働したスポーツイベントの開催や大規模スポーツイベントの誘致
- スポーツクラブやサークル等の育成・交流促進
- 多様な競技スポーツの推進

アクティビティ機能の 整備

主な取組

- グリーンフィールド富岡跡地等の公共施設・用地の利活用
- スポーツ活動に関する民間企業の誘致、人材確保
- 合宿機能の充実と対象者別プロモーションの推進

施策3 文化、芸術振興

町民が、文化・芸術に触れ、親しみ、楽しめるような環境づくりを行います

文化団体等と協働した 事業推進や担い手の育成

主な取組

- 文化芸術団体の育成や活動のサポート
- 文化団体・町民ボランティアと協働した事業の推進

文化芸術に親しめる 機会や場の充実

主な取組

- 芸術文化の鑑賞機会・発表の場の提供
- 芸術家の活動拠点としての空き地・空き家の活用
- 活動団体等のPR支援
- 町全体で楽しむ文化・芸術の推進

地域文化の 継承と振興

主な取組

- 地域と連携した祭事継承
- 郷土の歴史・伝統文化の理解に向けた啓発
- 歴史的・文化的遺産の魅力のPR

施策4

地域の担い手づくり

地域の活力を支える人材の発掘と育成を図り、支援体制と外部交流を通じて持続可能な活動基盤を強化します

担い手の 発掘・育成

主な取組

- 若い世代など、新たな人材発掘の強化
- 地域のリーダーやコーディネーター役になる人材の育成支援(再掲)
- 外部人材の活用促進

指導者の育成と 団体等の活動支援

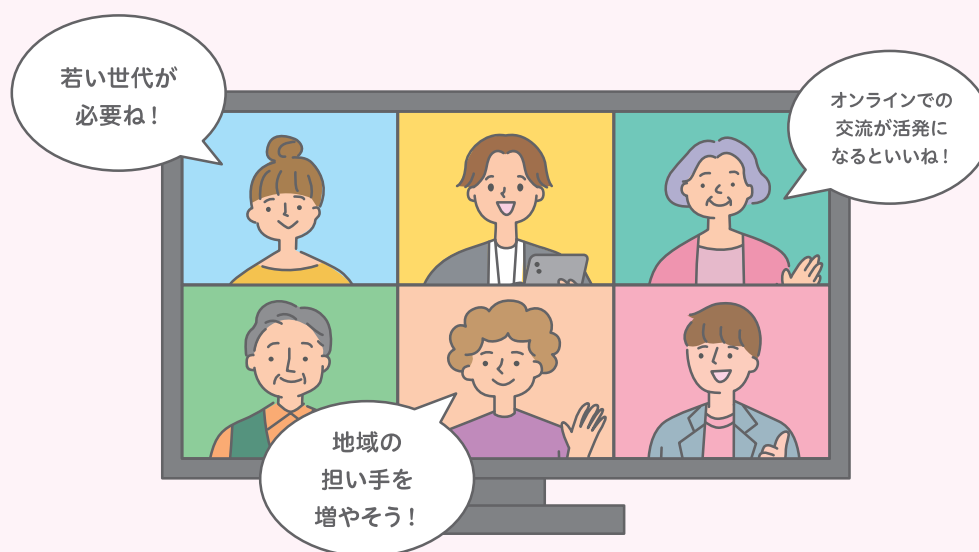
主な取組

- 各種団体・指導者の確保・育成支援
- ボランティア・サークル団体の設立による新たなコミュニティの育成支援
- ボランティアの参加促進と支援制度の拡充

外部との交流や ネットワーキングの促進

主な取組

- 外部講師等による最新の知識や技術を地域に取り入れる機会の創出
- 他地域との視察交流や研修の実施
- オンライン交流プラットフォームの構築



④ 人権の尊重・男女共同参画・多文化共生の推進

▶ 目指す姿

すべての人が平等に尊重され、男女共同参画が進み、地域全体で多様な価値観が受け入れられ、外国人も含めた多文化共生が実現しています。

▶ 現状と課題

- 人権教育については、人権擁護委員による地道な啓発活動が続けられているものの、地域社会における認知度は依然として十分とは言えない状況にあり、人権相談窓口の存在自体の認知度も高くありません。そのため、社会的トラブルの防止や地域社会の健全な発展のためには、人権教育・啓発推進の体制を充実させる必要があります。
- また、男女共同参画については、これまでの固定的役割分担意識を解消するだけの議論だけではなく、パートナーシップ制度や性的マイノリティ・LGBTQなどの性的多様性を鑑み、今後は公平性や包摂性の観点による男女共同参画の推進が求められています。
- 多文化共生については、近年、町内には外国籍の住民が少しずつ増えています。今後は、国際交流や多文化共生を推進する必要があります。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「多文化共生率」、「男女共同社会参画度」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
多文化共生率	多言語化対応事業数、国際交流イベント実施件数 等
男女共同社会参画度	男女共同参画啓発イベント数、人権啓発イベント参加者数 等

施策1

国際交流・多文化共生の推進

多文化共生を進めるべく、地域住民と外国籍住民が共に暮らしやすい環境を創出します

交流・多文化共生の
活性化

主な取組

- 国際化への意識啓発や国際理解教育の推進
- デジタル技術を活用したオンライン交流の推進
- 国際友好都市等への派遣・交流の再開

外国籍住民が
暮らしやすい環境づくり

主な取組

- 外国籍住民に対する相談体制の充実
- ICT技術やAI活用による、やさしい日本語や多言語による情報提供
- 多文化交流イベントの開催支援
- 言語学習や文化交流の機会の創出

友好都市との
相互発展の推進

主な取組

- 視察や研修等の相互交流機会の創出・拡大
- 有事の際の互助機能の強化

施策2

男女共同参画の推進

男女共同参画の意識の醸成や性の多様性への理解を進めます

男女共同参画の
浸透

主な取組

- 男女共同参画推進のための意識改革、理解の促進
- 普及啓発活動の推進

お互いを尊重し合う
取り組みの推進

主な取組

- 暴力根絶に向けた予防啓発活動の強化
- 関係機関との連携による被害者の安全確保・自立支援
- 関係機関との連携による社会復帰・更生支援

性の多様性への
理解の促進

主な取組

- パートナーシップ制度の導入と理解促進
- 職場等での理解促進の支援

施策3

人権教育・啓発推進体制の充実

互いに尊重し合う意識の普及・啓発と人権意識の高揚を図ります

人権尊重の
社会づくり

主な取組

- 人権への理解促進・普及啓発
- 差別やハラスメントの防止対策と通報制度の充実
- 多様性を尊重するコミュニティ活動の促進
- 学校や地域での人権教育の強化

関係機関と連携した
相談体制の充実

主な取組

- 人権擁護活動の推進
- 関係機関との連携による相談体制の強化



未来プラン3

くらしづくり

快適で安全・安心に暮らせるまち

環境的・機能的に心地よく穏やかに安心して過ごせる生活基盤づくりを進めながら、
富岡町が誇る美しい自然や街並みを取り戻すとともに、
かつての充実した都市機能の回復をはじめとする町内生活環境の再生に取り組みます。



くらしづくりを代表する指標

生活環境が整っている
と思う町民の割合

犯罪発生率と
犯罪対策実施率

住民生活満足度
(公共サービスの利用状況
と評価等)

政策

- ① 生活環境のさらなる充実…………… P71
- ② 安全・安心の根幹である徹底した除染 …… P75
- ③ 避難指示継続区域の復旧・復興 …… P77
- ④ 防災・防犯・防火対策 …… P79
- ⑤ 環境美化・自然環境の保全・活用 …… P81
- ⑥ 広報力・広聴力の強化 …… P83
- ⑦ デジタル化・行政DXの推進…………… P85

このテーマに特に関連の深いSDGs



① 生活環境のさらなる充実

▶ 目指す姿

町内の生活環境が充実し、住みやすさや利便性が向上することで、町民の満足度が高まっています。

▶ 現状と課題

- 複合災害前は、官公庁などの出先機関や商業施設等が充実し、良好な住宅地を活かし人口が増えていました。
- 生活面では、多くの生活必需・充実施設がありましたが、現在は「さくらモールとみおか」やコンビニエンスストアが中心で、衣料品店をはじめ再開していない業種も多くあり、買い物環境の充実など、生活環境の質の向上が求められています。
- 交通面では、主要道路の復旧が完了し、鉄道やバスなどの交通網も再開しました。しかし、自家用車を運転できない方の交通手段が十分ではなく、また、歩道環境の状態が悪い場所もあるため、安全で便利な交通体系が必要です。
- 住居面では、複合災害後、町内では公営住宅の整備・機能回復や借り上げ型町営住宅の運用などを進めていますが、帰還や移住希望者のニーズに合っていないケースも見受けられるため、多様なニーズに応じた住環境の確保が必要です。
- また、令和5（2023）年4月に避難指示解除が実現した夜の森地区については、避難指示は解除されたものの、いまだ居住人口が少ない状況が続いており、今後は各地区に応じた復興・創生に向けた取り組みにより町全体の底上げが必要です。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「地域定住満足度」、「町内生活サービス充実度」、「夜の森地区の生活環境整備度」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
地域定住満足度	帰還者数、移住者数（5年以上定住している人数の推移） 生活利便施設の新規開設数 等
町内生活サービス充実度	町内事業者数、公共交通利用者数 等
夜の森地区の生活環境整備度	新規住宅開発件数、地区内インフラ復旧率、夜の森地区居住者数 等

施策1

生活利便性の向上

誰もが暮らしやすい町内生活環境の充実を図ります

買い物環境の 充実

主な取組

- 企業や店舗の誘致
- 町内への出店・創業・事業再開等への支援

定住の促進

主な取組

- 空き地・空き家の利活用などによる住まい確保の支援
- 復興の歩みや町内生活環境の状況、各種支援メニューの情報発信の強化

産業の振興

主な取組

- 企業誘致の継続及び新たな産業団地の整備による雇用の確保
- ソフト・ハード両面による農林水産業の振興

充実した教育・ 子育て環境の提供

主な取組

- 子育てしやすいまちづくりの推進
- 公共教育関連施設の連携強化及び利活用促進



施策2

効率的・効果的な交通体系の整備

町民や観光客などに向けて、県及び周辺自治体と連携しながら多様な移動手段による安全で便利な交通体系を構築します

利用しやすい持続可能な 公共交通の確立

主な取組

- 誰もが使いやすい広域交通の確立
- 鉄道とバスの接続改善
- バスの路線や運行頻度の見直し

多様な交通手段の 確保・整備

主な取組

- 気軽に移動できる交通手段の推奨
- 新たな移動サービスの導入
- 歩行者空間や自転車利用環境の整備

道路環境の 充実・長寿命化

主な取組

- 官民が連携した快適な道路の維持管理
- ICT技術の活用によるインフラ維持の効率化・省力化

施策3

ニーズに合わせた住環境の確保

多様なニーズに応じた住環境の推進を図ります

多様なニーズに合わせた 住環境の確保支援

主な取組

- 二地域活動・居住、U・Iターン、ワーケーション等向けの住環境の確保支援(再掲)
- 若年層向け短中期宿泊手段の確保

町営住宅の 適切な維持管理

主な取組

- 定期的な点検と修繕計画の策定
- 入居者とのコミュニケーション強化

空き家・空き地の 利活用促進

主な取組

- 入居希望者への物件情報の提供
- 空き家の相談体制の整備や情報発信
- 地域不動産の活性化に向けた民間事業者との連携の強化

施策4

夜の森地区の復興・創生

令和5(2023)年4月に避難指示の解除が実現した夜の森地区の復興・創生を推し進めます

夜の森地区の 買い物環境等の整備

主な取組

- リフレ富岡跡地への買い物環境を中心とする夜の森地区中核拠点施設の整備

夜の森地区の にぎわいの復活

主な取組

- 良好な住環境を活かした帰還・移住の促進
- 地域資源の活用と町民との協働による地域活性化
- イベントの実施及び開催支援

JR夜ノ森駅や都市公園等を 活かしたまちづくり

主な取組

- 駅と公園との一体利用による快適な空間づくり
- 居心地がよく歩きたくなるまちなかの形成
- 関係機関と連携した老木化した桜の植替え、ツツジの再生の推進
- 民間活力導入等による花のまちづくりの推進



② 安全・安心の根幹である徹底した除染

▶ 目指す姿

国に対し各箇所の状況に応じた迅速かつ丁寧な除染を求めるとともに、放射線に関する正確な情報提供や管理が行われ、町民が安心して暮らせる環境になっています。

▶ 現状と課題

- 平成29(2017)年4月及び令和5(2023)年4月に避難指示が解除された地域における局地的に高い空間放射線量率の地点については、フォローアップ除染が継続されています。
- 引き続き、国・町が連携し、年間追加被ばく線量1 mSv以下を目指した徹底的な空間放射線量率の低減を進めていますが、町民の放射線量への不安を解消するための情報提供や支援が求められています。また、フォローアップ除染の実施状況やその効果を透明性をもって継続的に町民に伝えていく必要があります。
- 一方、避難指示が継続されている地域※(小良ヶ浜地区・深谷地区)では、墓地や集会所等及びそれらのアクセス道路の除染は完了しているものの、それらの一部では空間放射線量率が依然として高い状況です。令和6(2024)年2月には「富岡町特定帰還居住区域復興再生計画」が認定され、同年9月から集落内の面的な除染が始まっています。
- 今後は、町民の帰還を促進するために、スピード感をもって柔軟かつ効果的な除染作業が求められ、これまでの除染技術や知見を活かしつつ、現場に応じた対応が必要です。

※避難指示が継続している区域とは、平成25年3月25日に帰還困難区域に設定された区域のうち、令和5年4月1日及び同年11月30日に避難指示が解除された特定復興再生拠点区域を除く、主に小良ヶ浜・深谷地区を指します。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「関連機関連携度」、「除染関連情報伝達力」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
関連機関連携度	除染完了地域の割合 等
除染関連情報伝達力	除染に関する情報提供回数 等

施策1

除染の推進と安全対策

安全・安心な暮らしを実現すべく、国に対して徹底した除染を引き続き求めます

町内全域のさらなる 放射線量の低減

主な取組

- 環境省によるフォローアップ除染の継続による町全体の空間放射線量率の低減
- 特定帰還居住区域の帰還・居住に向けた徹底した除染

放射線 モニタリング調査

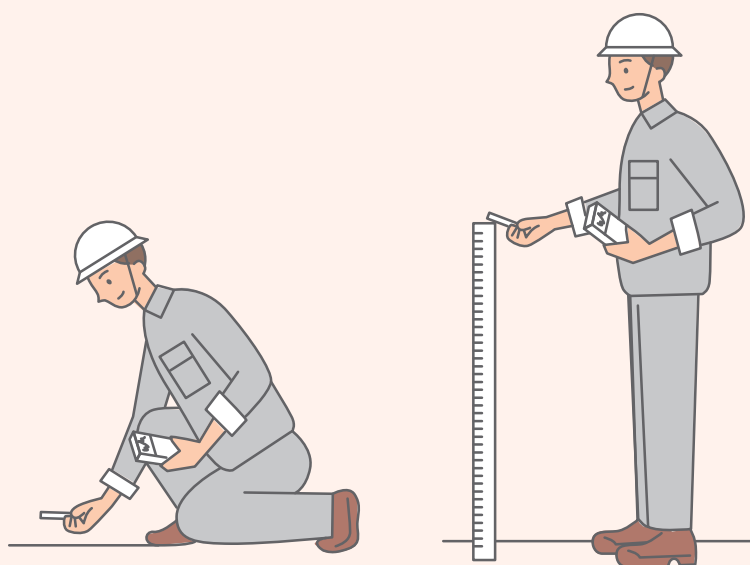
主な取組

- 町内の各所の放射線量調査
- 町による放射線量調査と国への共有によるフォローアップ除染の推進
- 継続的な情報発信

除染検証委員会 による客観的な評価

主な取組

- 年間複数回の除染検証委員会（現地検証を含む）の開催による客観的な評価・検証の実施
- 除染検証委員会の意見も踏まえた空間放射線量率低減に関する国との協議



③ 避難指示継続区域の復旧・復興

▶ 目指す姿

避難指示が継続されている区域全域の避難指示が解除され、「真の復興・創生」に向けたスタートを切っています。

▶ 現状と課題

- 町は、令和5(2023)年に特定復興再生拠点区域の避難指示が解除され、避難指示が継続されているのは、小良ヶ浜地区・深谷地区を中心とする町全体面積の6.7%となっております。
- 避難指示が継続している区域[※]については、本計画期間中に迎える「2020年代をかけて帰還意向のある方が帰還できるよう、帰還に必要な箇所の除染を進める」という政府方針が決定され、令和6(2024)年2月には、「富岡町特定帰還居住区域復興再生計画」が内閣総理大臣により認定されました。
- 今後も「帰還困難区域の再生なくして真の復興なし」の信念のもと、避難指示継続区域の早期の復興・再生に取り組んでいく必要があります。

※避難指示が継続している区域とは、平成25年3月25日に帰還困難区域に設定された区域のうち、令和5年4月1日及び同年11月30日に避難指示が解除された特定復興再生拠点区域を除く、小良ヶ浜地区・深谷地区を中心とする区域です。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「特定帰還居住区域復興再生計画」、「町内全域の避難指示解除に向けた取り組み」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標を設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
特定帰還居住区域復興再生計画	特定帰還居住区域復興再生計画に掲げた取り組みの進捗率 等
町内全域の避難指示解除に向けた取り組み	特定帰還居住区域の追加設定状況 等

施策1

避難指示継続区域の復旧・復興

「帰還困難区域の再生なくして真の復興なし」の信念のもと、避難指示継続区域の早期の復興・再生に取り組みます

特定帰還居住区域の整備

主な取組

- 区域内における除染やインフラ復旧の着実な実施
- 複数回の帰還意向調査に基づく少しでも広い追加区域の設定
- 各事業主体による進捗・工程の管理と関係機関との情報共有

早期の町内全域の避難指示解除

主な取組

- 早期の町内全域避難指示解除や、特定帰還居住区域制度に該当しない土地や建物の除染に関する国との協議
- 避難指示継続区域の土地利活用計画の検討

地域との意見交換

主な取組

- 地元の意見を傾聴する意見交換会の継続的な開催



④ 防災・防犯・防火対策

▶ 目指す姿

災害や犯罪、火災に対する備えが整い、日常生活の中で安全が守られる環境が構築され、誰もが安心して暮らせる災害に強いまちになっています。

▶ 現状と課題

- 町は、「防災パンフレット」や「原子力災害広域避難計画」を策定し、防災体制の整備を進めています。複合災害後は、防災備蓄倉庫の設置などハード面での対策は進んでいるものの、人材確保の面などで災害が発生した際の対応には不安が残っているため、町民と連携した防災力の強化が必要です。
- 防犯・防火対策については、双葉警察署や富岡消防署との連携が進み、「とみおか守り隊」等による24時間・365日体制のパトロールも実施されています。しかし、消防団員の不足等により空き巣・強盗などの犯罪が発生しており、今後は、さらなる防犯・防火対策の強化が求められています。
- 交通安全に関しては、複合災害前はPTAや地域の方々が積極的に関わっていましたが、複合災害後は小中学生の登下校がスクールバスで行われている状況であることも相まって、地域活動が行われていません。一方で主要道路の交通量が増加していることから、歩行者の安全確保が懸念され、交通安全対策の強化が求められます。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「防災対策度」、「日常の安全度」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
防災対策度	自主防災組織数、防災備蓄品整備数、個別避難計画の作成率 等
日常の安全度	犯罪や交通事故、火災の発生件数(減少数)、交通事故発生件数(減少数)、消防団員や装備の充足率 等

施策1 地域防災力の向上(強化)

複合災害の教訓を踏まえ、町民と連携し、防災力を強化します

公民連携による 地域防災力の強化

主な取組

- 「自助」・「公助」・「共助」の意識醸成
- 自主防災組織の結成と活動の支援
- 防災訓練の充実・強化
- 防災教育の実施
- ハザードマップ等の普及

あらゆる危機に対応 できる防災体制の充実

主な取組

- 防災備蓄品の確保
- 防災行政無線やSNS等を活用した災害情報の提供
- 災害対応計画・業務継続計画等の最適化
- 危機管理体制の強化

自然災害による 被害の最小化

主な取組

- 公共物の耐震化
- 民間住宅の耐震化の推進
- 都市防災機能の強化(向上)

施策2 防犯・防火・予防活動の強化

地域全体での防犯・防火意識を高め、安全・安心なまちづくりを進めます

防犯体制の充実

主な取組

- 防犯パトロールの維持
- 防犯関連情報の発信
- 家庭用防犯カメラ設置の普及促進
- 防犯カメラの適正管理と地域安全対策

火災予防の推進

主な取組

- 住宅用火災警報器の設置・維持管理推進
- 防火対策の強化
- 各種広報媒体を活用した広報活動の推進

災害対応力の向上

主な取組

- 消防団員の資質向上や待遇・福利厚生の充実、団員の確保
- 消防訓練の充実
- 関係機関・周辺自治体との広域的な連携強化

施策3 交通安全対策の強化

道路の安全対策を図り、交通安全教育を強化し、交通事故の予防に努めます

道路の 安全対策の実施

主な取組

- 街路灯・防犯灯の維持管理
- 路面の補修、交差点改良、視距の確保

交通安全教育の 強化

主な取組

- 交通安全運動の推進
- 交通ルール・マナーの普及啓発

関係機関との連携

主な取組

- 交通監視・取り締まりの強化
- 各種制度の周知・広報

⑤ 環境美化・自然環境の保全・活用

▶ 目指す姿

四季折々の美しい自然が大切にされ、地域で環境を守る意識を持ちながら、住む人も訪れる人も快適に過ごせるようになっています。

▶ 現状と課題

- 複合災害前には「花いっぱい運動」や「ごみゼロ運動」などが地域主体で活発に行われていましたが、複合災害後は長期避難の影響も相まって限定的な活動になっています。今後は、環境美化活動の活性化をはじめ、町民や民間と連携・協力した持続可能な環境美化活動や環境負荷の低減が必要です。
- 町の象徴である桜やツツジをはじめ、本町は「花と緑あふれる町」として広く知られていましたが、長期避難により適切な維持管理ができなかったことに加え、桜の老木化や、除染によるツツジの除去などにより、花や緑の資源が失われつつあります。今後は、貴重な地域資源の再生を図りながら、町の魅力を高める取り組みを行う必要があります。
- また、自然環境を持続可能なものとしていくために、適正な土地利用・都市計画の推進や、環境教育の推進等、脱炭素社会・循環型社会に向けた取り組みの推進が必要です。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「環境保護度」、「環境価値創出度」、「脱炭素社会への貢献度」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
環境保護度	環境美化活動参加者数、リサイクル率 等
環境価値創出度	自然を活用したイベント数、自然観光資源の整備件数、桜の維持活動件(本)数 等
脱炭素社会への貢献度	省エネルギー施設数、脱炭素関連プロジェクト数 等

施策1

環境美化・環境保全の推進

町民や民間等と連携・協力し、持続可能な環境美化活動や環境負荷の低減を推進します

環境美化活動の
活性化

主な取組

- 多様な主体と連携・協働した環境美化活動の推進
- 環境美化意識やマナーの向上

循環型社会の
推進

主な取組

- ごみの減量・分別の推進
- 事業系ごみの減量化、資源化

廃棄物の不法投棄対策の
推進

主な取組

- ごみ収集体制の整備
- 違反ごみ、不法投棄対策の実施

施策2

自然を活かしたまちづくり

貴重な地域資源の再生を図りながら、町の魅力を高める取り組みを行います

「花と緑あふれる町」の
ブランド化

主な取組

- 老木化した桜の植替え及びツツジの再生の推進、並びに維持管理の推進
- 「花と緑」をテーマにしたイベントの開催

地域にふさわしい
良好な景観形成・維持

主な取組

- 調和のとれた都市景観及び緑地環境の推進
- 景観を身近に感じられる都市空間の整備
- 景観維持に対する意識の醸成
- 歩きたくなる都市空間の整備

自然環境・生活環境の
維持・保全

主な取組

- 安全で快適な公園や緑地の推進
- 民間活力導入による公園の活用促進
- こどもたちへの森林教育の開催

施策3

脱炭素社会・循環型社会に向けた取り組みの推進

脱炭素社会の実現に向けて各種取り組みを行います

地域脱炭素社会の
実現に向けた取り組みの推進

主な取組

- 適正な土地利用・都市計画の推進
- 町有施設の省エネ化の推進
- 中小企業向けの省エネルギー対策支援

環境にやさしい行動の
普及・啓発

主な取組

- 学校や地域での環境教育の推進
- 環境に配慮した事業活動の推進

調和のとれた
再生可能エネルギーの推進

主な取組

- 小規模分散型エネルギーシステム導入
- 持続可能な資源利用と地元産業との連携の推進
- 町民参加型エネルギー事業の導入

⑥ 広報力・広聴力の強化

▶ 目指す姿

町の情報を必要とする方へタイムリーに発信されるとともに、町民の声が施策に反映されるようになり、「町民同士」、「町民と町」、「町と外部」のつながりが一層強化され、多くの人への情報提供が充実しています。

▶ 現状と課題

- 町は、広報紙「広報とみおか」、公式ホームページやSNSなどのデジタル媒体を活用し情報発信を行っており、特にInstagramの「町民カメラ」企画が好評です。また、「とみっぴーラジオ」や「ふるさとふくしまCM大賞」への参加により、PR活動を実施しています。しかし、情報の更新頻度や即時性の不足があり、より分かりやすく魅力的な情報が適切な時期に、適切な方法で、多くの人に届くような広報活動が必要です。
- また、町では、広聴の機会として年1回の町政懇談会の開催や、町民ポストの設置、メール問い合わせ機能の整備により町民の声をお聞きする取り組みを行っています。今後は、町政に関心を持つ町民を増やすために、町民の声を積極的に伺い反映する機会が必要です。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「情報発信力」、「広聴力」とし、毎年事業評価を行っています。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
情報発信力	広報媒体のアクセス数、情報発信チャンネル数 等
広聴力	住民説明会・町政懇談会参加者数、町民提案制度の実施件数 等

施策1

広報力(情報発信)の強化

町に関する情報がタイムリーに、より多くの人に届くように広報活動を推進します

多様な媒体を活用した情報発信の充実

主な取組

- 広報紙発行の継続
- 町ホームページやSNS媒体(デジタル広報)の拡充・強化
- 各種広報媒体やアプリ等の活用促進、操作支援

ユニバーサルデザインを考慮したデジタル情報提供

主な取組

- 広報媒体における多言語化、読み上げ機能の付加

シティプロモーション活動の充実

主な取組

- 多様な媒体による魅力的な情報発信
- 海外へのプロモーション活動の展開
- ふるさと納税返礼品の充実
- 行政や団体、企業等による積極的な視察の受入れ

施策2

広聴力の強化

町民の声が町政に反映できるよう、広聴活動の充実を図ります

広聴機会の充実

主な取組

- 町民の参加しやすさに配慮した町政懇談会等の開催
- パブリックコメントの実施方法の簡素化、フィードバックの実施

町民ニーズを幅広く把握する機会の充実

主な取組

- 町民ポスト、メール問い合わせ機能の見直しと改善
- 町政モニター制度(無作為抽出調査)の導入



⑦ デジタル化・行政DXの推進

▶ 目指す姿

デジタル技術が広く活用され、利便性が向上し、町民が行政サービスを簡単に利用できる環境が整うとともに、業務の効率化による町民へのサービスが向上しています。

▶ 現状と課題

- マイナンバーカードの普及及び役場庁舎や公共施設へのフリー Wi-Fiの整備など、町内でのデジタル化は少しずつ進んでいます。しかし、町民の中にはデジタル機器の操作やマイナンバーカードの取得に対する不安を抱える人もおり、町内でのデジタル化の推進には解決すべき課題があります。今後は、デジタル技術への不安解消や利便性の高い町民サービスの提供が必要です。
- 庁内では、職員の出退勤管理や財務会計など、着実にデジタル化を導入しています。しかしながら、行政事務の効率化にはさらなる取り組みが求められ、職員のデジタルに関する知識の向上が課題です。今後は、自治体DXの推進による業務の効率化に努め、町民サービスの向上を図っていく必要があります。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「行政サービス利便度」、「行政事務の効率化率」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
行政サービス利便度	オンライン対応サービス利用件数、情報格差対応件数 等
行政事務の効率化率	デジタル化による業務効率改善率 等

施策1

デジタル化の推進

デジタル技術の活用により、いつでもどこでも町民サービスを受けられる環境づくりを推進します

デジタル人材の確保

主な取組

- 県・市町村や民間事業者との連携による広域的な人材確保

デジタルに関する教育とサポート

主な取組

- 学校教育におけるデジタル教育の促進
- デジタルが苦手な方向けの講習会等の開催
- オンライン申請などの利用手順の周知
- 情報リテラシー及びアクセシビリティの向上に向けた教育

地域社会のデジタル化の推進

主な取組

- 公共施設におけるフリー Wi-Fi の整備
- 町内におけるデジタルインフラの整備促進
- 地域でのデジタル講座の開催
- マイナンバーカードの普及推進・利用促進

施策2

自治体DXの推進

自治体DXの推進による業務の効率化に努め、町民サービスの向上を図ります

職員のデジタル人材育成

主な取組

- 外部専門家との連携による学習機会の確保
- 庁内でのデジタル化に関する情報共有や相互支援を行うネットワークの構築

行政事務の効率化・オンライン化の普及促進

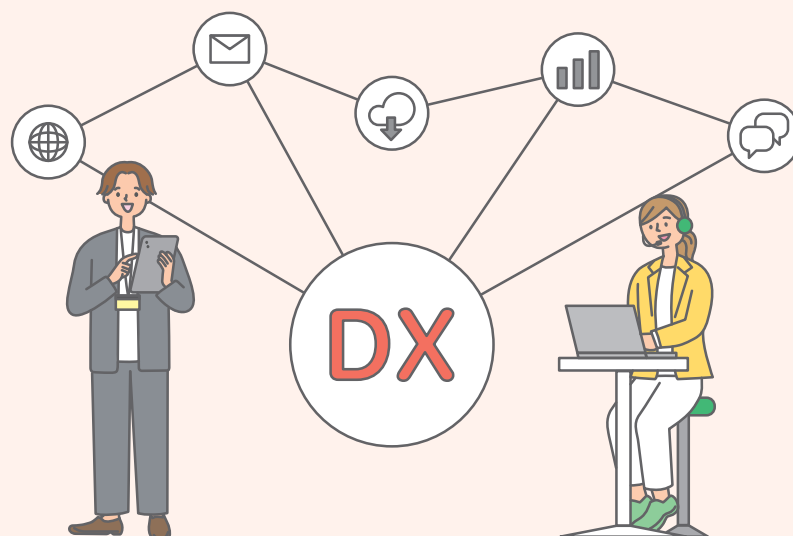
主な取組

- アプリ等を使用したデジタル化の導入・活用
- 行政事務にかかる資料等の電子化の推進
- 自治体情報システムの標準化・共通化による効率の向上

セキュリティ対策

主な取組

- セキュリティ対策の強化と周知徹底
- 最新のセキュリティ技術導入とシステムの定期的な監査



未来プラン4

健康づくり

心も体も健康で、みんなが社会とつながり
ながら元気に生き生きと暮らせるまち

全世代が心と体を健やかに保つための医療・福祉体制の充実に加え、
運動の励行や食生活の改善などの健康増進の取り組みを推進して、
快活で充実した日常生活をサポートします。



健康づくりを代表する指標

日常的な運動習慣
を持つ住民の割合

健康診断受診率と
要指導者の改善率

共生や共助が地域に
根付いていると思う
町民の割合

政策

- ① 心身の健康づくりの推進 P89
- ② 地域医療・介護・福祉の推進 P91
- ③ 放射線による健康不安対策 P95

このテーマに特に関連の深いSDGs



① 心身の健康づくりの推進

▶ 目指す姿

心と体の健康を大切に、健康的な生活が地域の文化として広がることで、年齢を問わず元気に過ごせるようになっています。

▶ 現状と課題

- 複合災害前は、地域全体で健康に取り組む意識が高く、健康祭りなどの多くの健康づくり活動が活発に実施されていました。健康増進の維持・向上に対しては、健康診査や各種がん検診の受診促進、健康教室や相談の機会の一層の充実が求められます。
- 特に、高齢化率が34.2%と県平均(33.3%※)を上回る中で、高齢者の健康づくりを推進することが求められています。また、働き世代への特定保健指導が十分に進まない状況もあり、生活習慣病の予防や健康意識の向上が課題となっています。今後は、町民が日常的に健康を意識できる環境を整え、世代を問わず健康的な生活習慣を推進していく必要があります。
- また、町内には、健康増進のためにジョギングコースが整備されていますが、現在はあまり活用されておらず、環境が十分とはいえません。今後は、健康活動を行える環境・体制の整備が必要です。

※ふくしま高齢者すこやかプラン(令和5年10月1日時点)より

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「町民健康度」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標を設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
町民健康度	健康づくりイベント開催数・参加者数、健康づくり施設利用者数 等

施策1

健康的な生活習慣づくりの推進

健康的な生活習慣を推進するため、町民が日常的に健康を意識できる環境を整えます

食や運動による
健康づくりの推進

主な取組

- 食育の推進や運動の導入など生活習慣の見直しの促進
- 自主的な健康づくりの取り組みの推進
- 自身による身体・生活状態の把握(セルフチェック)の促進
- データヘルス計画に基づく健康寿命の延伸

疾病の早期発見

主な取組

- 健康診査や各種がん検診の受診の呼びかけ、受診率の向上
- 健康増進機会の提供や相談体制の拡充、参加促進

こころの健康づくりの推進

主な取組

- メンタルヘルス教育と啓発活動の強化
- 関係機関との連携による相談体制の強化
- コミュニティ活動の促進による孤立の防止

施策2

健康づくりの環境・支援体制の整備・推進

健康活動を行える環境・体制の整備を進め、町民が健康的な生活を実践できる環境を整えます

健康づくり機会の
創出

主な取組

- 健康イベントや企画の充実
- スポーツ関係団体との連携による町民の健康の増進
- 周辺自治体との連携によるスポーツ推進
- デジタル技術を活用した健康サポートの提供

健康インフラの
整備

主な取組

- 公共施設での健康活動の推進
- ウォーキング・ジョギング・サイクリングコースの整備
- 歩きたくない・運動したくない環境整備

健康教育活動と
啓発活動

主な取組

- 学校や職場での教育・研修プログラムの推進
- 地域コミュニティによる健康教育の実施
- デジタル技術を活用した健康サポートの提供(再掲)



② 地域医療・介護・福祉の推進

▶ 目指す姿

高齢者や障がい者をはじめ様々な人々が安心して暮らせる医療・介護・福祉が整い、地域全体で支え合い、共生型社会の実現に向けて進む温かい町・地域になっています。

▶ 現状と課題

- 地域医療については、複合災害後は医療機関が少しずつ再開されていますが、診療科の不足や医療機関誘致の難しさが課題であることに加えて、郡内の医療機関への交通手段が限られ、町民の利便性が十分とは言えない状況です。今後は、周辺自治体の医療機関との連携も含め、町民が安心して必要な医療サービスを受けられる環境の整備が必要です。
- 障がい福祉については、就労の場の確保や、放課後デイサービスが不足している状況です。今後は、障がいを持つ方々がより快適に生きがいをもって生活できる環境の整備が必要です。
- 高齢者福祉については、町内避難指示解除後に特別養護老人ホームを整備した一方で、在宅介護サービスの不足が懸念されています。今後は、高齢者が安心して生き生きと暮らせる環境の整備が必要です。
- 地域福祉や生活困窮者支援については、支援サービスの認知度が低く、資源や人材不足によって支援の継続性や安定性が確保されていません。今後は、社会的孤立を防ぎ、地域全体の安定と調和を図るため福祉サービスの充実と地域で支える仕組みの構築が不可欠です。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「地域医療サービスの水準」、「福祉サービスの水準」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
地域医療サービスの水準	医療連携充足率（訪問診療・訪問看護体制）、避難所医療・介護体制の確保状況、医療機関・診療科数 等
福祉サービスの水準	介護・福祉施設の充足率（施設件数、提供可能なサービス数）、利用者満足度、介護予防事業の実施効果 等

施策1 地域医療の維持・充実

町民が安心して必要な医療サービスを受けられる環境を整備します

安心して必要な医療サービスを受けられる環境整備

主な取組

- 地域医療体制の維持
- 通院支援
- 医療機関の情報発信
- オンラインを活用した医療相談、診療体制の検討・整備
- 療育環境の充実(児童発達支援施策の展開)

連携体制強化・広域連携の促進

主な取組

- 周辺自治体の医療機関との連携体制強化
- 広域医療ネットワークの構築



施策2 障がい福祉の充実

障がいを持つ方がより快適に生きがいをもって生活できる環境を整えます

安心して生活できる環境づくり

主な取組

- 障がい者・児へのサービスの確保(広域連携・民間誘致)
- 民生児童委員との情報共有や相談、連携体制の整備

町民の理解促進と協力体制の構築

主な取組

- 障がい者・児に対する理解促進・普及啓発
- 障がいのある人もない人も共に活動できる地域づくりの担い手育成
- 地域の権利擁護支援(権利擁護中核機関の充実強化・ネットワークの構築)

自立と社会参加の促進

主な取組

- 障がいを持つ方への就労支援の充実
- 障がいを持つ方への社会参加の機会の拡大
- 情報共有プラットフォームの構築

施策3 介護・高齢者福祉の充実

高齢者が安心して生き生きと暮らせる環境を整備します

多様な生きがいづくり

主な取組

- 高齢者が日常生活に充実感や生きがいを感じられるような、趣味やボランティア活動の推進
- 世代間交流の充実
- 高齢者の就業や学びの機会の確保

見守り・相談支援体制の整備

主な取組

- 地域や医療機関、介護施設等と連携した、見守り・相談支援の充実
- 地域包括ケアシステムの構築
- 保健事業と介護予防・虚弱(フレイル)対策の一体的な実施

介護福祉サービス及び介護予防支援の充実

主な取組

- 多様な介護予防事業の展開
- 在宅支援サービスの整備
- 認知症に関する町民の理解促進、普及啓発
- 高齢者の住環境確保の支援
- 介護・福祉人材の育成、確保

支援を必要とする人が必要なサービスを受けられるようにします

町民がお互いに支え合える 仕組みの構築

主な取組

- 町民や民間企業・団体などの地域の多様な主体の社会参加の意識醸成
- 平時からの地域での支え合い活動の促進
- コミュニティイベントや地域交流、共助活動の推進

相談・支援体制の充実

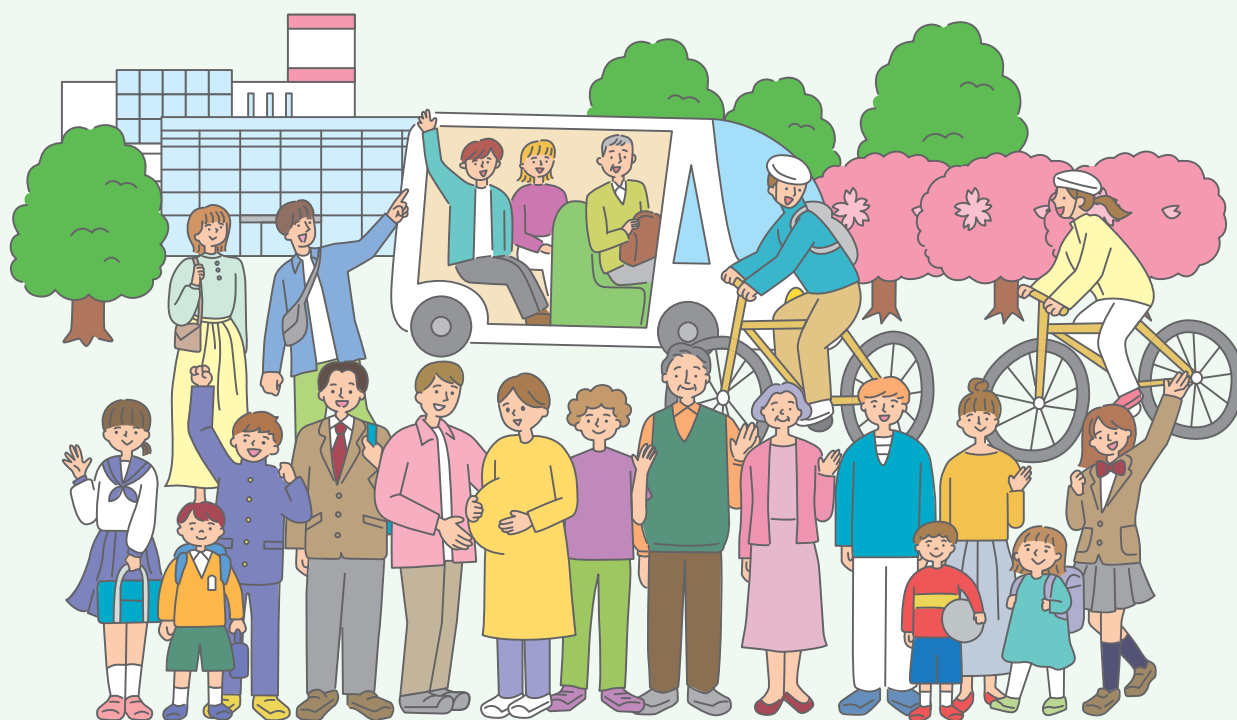
主な取組

- 包括的な相談支援体制の構築
- 民生・児童委員等関係機関の活動支援
- 災害発生時の共助体制の構築
- 地域福祉に関する教育・啓発活動

自立・就労支援の充実

主な取組

- 生活環境に起因する複合的課題を抱える方に対する各種自立へ向けた支援
- 町内企業との連携強化による就労機会の提供
- 就労後の経過観察の強化
- 就労支援と社会参加の促進



③ 放射線による健康不安対策

▶ 目指す姿

町民への放射線に関する情報提供により、放射線による健康影響の不安が解消され、安心して暮らせる環境が整っています。

▶ 現状と課題

- 町では、町内140ヶ所で空間線量率の定点測定や、町内全域道路の測定結果などを広報紙、町ホームページで情報発信に努めています。また、車載型ホールボディ・カウンタを用いた内部被ばく検査も実施しています。このような中、放射線に対する意識が徐々に低下しており、内部被ばく検査や甲状腺検査の受検者数が減少傾向にあります。一方、自然環境に生息する山菜やキノコ類など一部で放射性セシウム濃度が基準値を超えるものもあるため、今後も引き続き、放射性物質検査を継続する必要があります。
- 町内における、放射線に関する情報発信については、毎月発行の広報紙や定期発行の情報誌「ライフとみおか」を通じて、放射線の正しい知識の発信をしています。また、施設見学、意見交換会、専門家による勉強会を開催しています。しかし、放射線の用語や単位に馴染みが薄く、情報伝達、取り扱いの難しさがあります。
- 今後は、町に放射線に対する認識を深めてもらうための放射線リスクコミュニケーション活動を継続し、施設見学、意見交換会、専門家による勉強会などをニーズに合わせて実施し、町民の参加を促す取り組みが必要です。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「放射線関連情報伝達力」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標を設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
放射線関連情報伝達力	情報誌等での情報発信件数、ニーズに応じたリスクコミュニケーションイベント開催 等

施策1

町内モニタリング等の継続実施

モニタリング等の継続実施による結果を踏まえ、あらゆる対策を施し、町民の安全と安心の確保に努めます

空間放射線量率の計測

主な取組

- 施設、道路、歩道などにおける空間放射線量率の計測の継続

健康不安対策における各種検査等

主な取組

- 自家消費農産物等の放射性物質の測定
- 内部被ばく検査等、各種線量計の貸し出し等の継続



施策2

放射線リスクコミュニケーション、放射線に関する情報発信

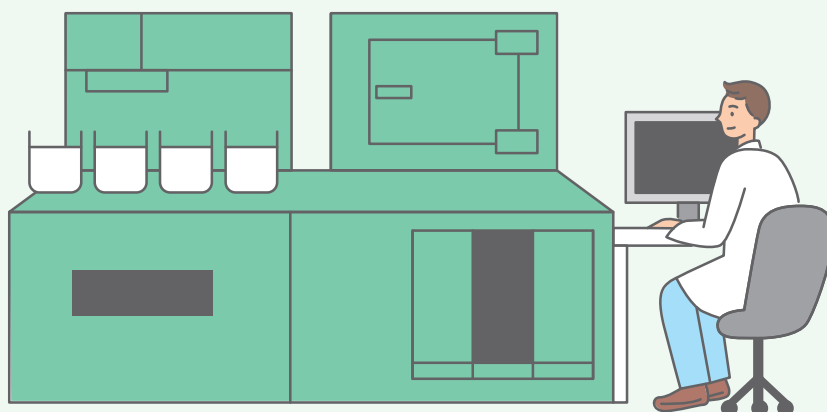
放射線リスクコミュニケーション活動を継続し、放射線に対する情報をより分かりやすく発信します

放射線リスクコミュニケーション体制の維持

主な取組

- 放射線に対する不安軽減となる情報発信や相談体制の継続
- 関係機関と連携を図り、放射線の正しい知識理解に関する学びの場の提供

放射線量測定の様子



未来プラン5

しごとづくり

多彩な産業が発展し、
みんなが笑顔で働くまち

働き手の定着やにぎわいをもたらす取り組みを
民間企業や関係機関と連携しながら実践しつつ、町内での起業支援も充実させて
富岡らしさと新しさに“富む”経済や産業を創出します。



しごとづくりを代表する指標

地域内総生産
の成長率

創業件数、
事業再開件数

町内就業者・
就農者数の増加率

政策

- ① 産業の振興・雇用の確保 P99
- ② 起業支援、チャレンジ応援 P101
- ③ まちのにぎわいづくり P103
- ④ 農林水産業の振興 P105

このテーマに特に関連の深いSDGs



① 産業の振興・雇用の確保

▶ 目指す姿

多様な産業が発展し、町の特性を活用した雇用が安定して確保され、町内外から働く人が集まり、地域経済が活性化しています。

▶ 現状と課題

- 本町は、持続可能な新たな産業構造の再構築を目指し、地域産業の活性化及び雇用の促進を図る「富岡産業団地」を整備し、既に多くの企業が操業を開始しており、それに続く新たな産業団地の整備を進めています。町内への企業等の進出・誘致にあたっては、周辺自治体の動向も把握しながら、町独自の魅力を際立たせる必要があります。今後は、企業等の進出環境を整備するとともに、より積極的・注力的な誘致活動を行っていく必要があります。
- 雇用の確保の面では、複合災害前は多様な業種が存在していましたが、現在の復興需要に伴って、働ける業種・職種の選択肢が限られています。今後は、多様な産業の振興を進めるとともに、多様な人材の雇用や就労につながる支援を行っていく必要があります。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「地域産業活性度」、「地域雇用貢献度」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
地域産業活性度	富岡第二産業団地(仮称)整備進捗率、新規企業誘致数 等
地域雇用貢献度	若年層の町内就業率、有効求人倍率、未再開業種の再開 等

施策1

企業等の進出環境の整備

「町外企業に選ばれる、魅力のあるまち」となるべく、企業が進出しやすい環境を整備します

町外企業等の
進出環境の整備

主な取組

- さらなる産業団地の整備
- 改装や設備投資にかかる費用の支援

商業施設の誘致

主な取組

- 進出しやすい環境整備
- 進出企業に対する税制優遇措置や助成の充実
- 町内企業や団体との商談や協力ができる体制の構築



施策2

企業誘致及び進出後の事業成長の推進

企業等の進出促進のため、積極的・注力的な誘致活動を行います

進出企業・町内企業・大学等
との連携・協業の促進

主な取組

- 町内企業間の連携促進
- 企業や大学、研究機関等のサテライトオフィスへの誘致
- サテライトオフィスを起点としたオープンイノベーションの推進による事業の創出

福島イノベ構想や
F-REI関連機関等の誘致活動

主な取組

- 研究開発や新しい事業展開を後押しする環境づくり
- 共同研究や技術開発の場の提供
- 町内企業や技術者と外部の研究機関・企業の結びつけ

誘致関連情報の
積極的な発信

主な取組

- SNS等を活用した広報強化
- プロモーションコンテンツの作成
- 国内外での交流機会への参加、宣伝活動

施策3

雇用の確保・拡大

多様な方々の雇用機会の確保に取り組みます

多様な人材の雇用や
就労につながる支援

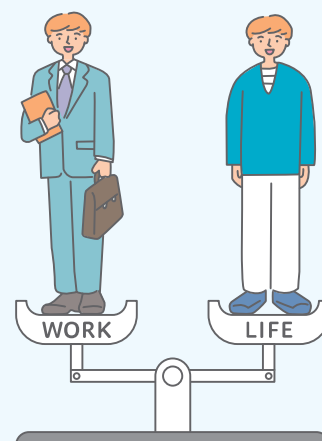
主な取組

- 町内企業との連携による雇用機会の創出
- 職業訓練やスキルアップの支援
- 人材マッチング環境の整備
- 専門家人材の登用・活用

町内事業者のワーク
ライフマネジメントの推進

主な取組

- 町内での保育や介護サービス等を導入する企業への支援
- 働き方改革に伴う、IT技術等による生産性の向上や柔軟な働き方の推奨



② 起業支援、チャレンジ応援

▶ 目指す姿

起業しやすい環境が整い、新しい事業に挑戦する人々が増え、成長と挑戦が息づく町になっています。

▶ 現状と課題

- 町内では、複合災害以降、様々な分野で起業される方が出てきています。しかし、都市部と比較して人材や情報、技術が限定的であることから、若い世代や新規参入者の起業意欲が高まらず、経済活動の活性化が十分に進んでいない状況です。
- また、町内の事業再開に対する支援は行われているものの、店舗や事業所の再建や資金面のハードルは依然として高く、さらに需要の変化等もあり、事業を安定的に継続することが難しい状況です。
- さらに民官学の連携が十分に機能しておらず、地域課題の解決や持続可能なビジネスモデルの確立に向けた取り組みが遅れています。
- 以上を踏まえ、今後は、起業希望者が事業の継続性を見極める機会の提供や、安心して起業できる環境を整える等、起業やスタートアップ企業に対する支援を充実させる必要があります。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「新規起業率」、「町内定着度」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
新規起業率	起業支援補助金交付件数、アクセラレータープログラム実施件数 等
町内定着度	定着率、起業セミナー・研修参加者数 等

施策1

起業・スタートアップ・チャレンジ支援

起業やスタートアップ企業に対する支援を充実させます

起業・創業しやすい 環境づくり・支援

主な取組

- チャレンジしやすい仕組みづくり
- 新たなサービス等の創出に向けたICT活用の支援
- 経営革新等支援機関による企業支援
- 関係機関との連携による、起業・創業初期の課題解決や事業の成長の支援

町内での 事業再開支援の継続

主な取組

- 継続経営ができるよう町内で再開した事業者への支援

活動の場や 交流機会の創出

主な取組

- サテライトオフィスをはじめとしたチャレンジ環境の整備
- 実証・実装の場(フィールド)の提供
- ビジネスマッチングや異業種交流の推進
- 新規起業者と町内企業の連携支援

民官学共創による 地域・社会課題の解決

主な取組

- 実践的なインターンシップや共同プロジェクトの実施
- 研究開発の推進
- 地域活性化企業人や企業版ふるさと納税等の制度の積極的活用



③ まちのにぎわいづくり

▶ 目指す姿

町全体の魅力が高まり、駅前や商業地域がにぎわい、観光に訪れる人が増え、活気があふれています。

▶ 現状と課題

- 町の商業振興には、日常生活圏だけでなく町外からの交流人口を拡大することが求められています。複合災害前は、夜の森の桜や海、スポーツ交流等を目的とした来訪が多くありました。しかし、複合災害後は、町外の方が目的をもって訪れる機会が減り、桜まつりなどのイベントで集客があっても他に滞在する場所が少なく、町内滞在時間が短いなどの課題があります。今後は、地域資源を活用した魅力ある町のにぎわいづくりに取り組む必要があります。
- 複合災害前の町内の2つの鉄道停車駅前には、商店が広がっていました。しかし、複合災害以降、商店は姿を消し、以前のようなにぎわいがなくなっていました。今後は、地域内外の交流やにぎわいを創出する拠点として活性化を図ることが必要です。
- また、町内の商店街に関しては、複合災害前は、「中央商店街」があり、小売商店が立ち並んでいました。しかし、複合災害以降は事業者の避難、建物の解体により商店街の機能が失われてしまいました。今後は町内の商業活性化に向けた各種取り組みが必要です。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「商業活性度」、「交流人口の拡大度」、「交流人口の定着度」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
商業活性度	観光イベント開催数、各種ツーリズム受入件数、中央商店街イベント開催数 等
交流人口の拡大度	町内入込客数、町内入込客数リピート率 等
交流人口の定着度	

施策1

観光振興

桜や水産資源など地域資源を活用した魅力ある観光振興に取り組みます

観光資源の有効活用・発掘

主な取組

- 桜や海、川、山などの保全・活用
- 地域資源を活かした観光の振興
- 観光ルートの構築、イベントの充実
- 未活用資源の掘り起こしとストーリー性の付加

観光プロモーションの推進

主な取組

- 観光マップやSNS等による情報発信
- 各種イベントの実施やふるさと納税を通じた情報発信

受入れ環境の整備

主な取組

- 公共施設の改善・整備
- 町内での移動・周遊手段の確保（再掲）
- 多言語対応等、訪日外国人観光客対応の推進
- 受入れ体制や観光業従事者の人材育成
- 地域全体でおもてなしの意識の醸成

施策2

商業の活性化

地域内外の交流やにぎわいを創出する拠点として活性化を図ります

交流拠点の整備

主な取組

- 富岡駅前及び夜ノ森駅前における交流の場の整備
- リフレ富岡跡地への買い物環境を中心とする夜の森地区中核拠点施設の整備（再掲）
- 商業施設の誘致

にぎわいの機会の創出

主な取組

- イベント開催支援、大規模イベントの誘致
- 関係団体等による活動の推進
- 富岡駅前及び夜ノ森駅前の利活用促進

魅力ある商業地域の形成

主な取組

- 各種イベントの開催支援
- 立ち寄りやすい環境の整備
- 文化・芸術活動の取り入れ
- 地域のコミュニティスペースや多目的スペースとしての活用
- 短期的な利用も含めたチャレンジ支援



④ 農林水産業の振興

▶ 目指す姿

町の気候や立地特性を活かした農林水産業が発展し、持続可能な生産が行われ、地域経済を支える基盤となり活気があふれています。

▶ 現状と課題

- 複合災害前の町の基幹産業は農業であり、水田を中心として多くの農地が存在していました。しかし、複合災害による長期避難で農地は耕作できず耕作放棄地が広がってしまい、森林についても維持管理が困難になってしまいました。今後は、活気あふれる農業および林業の振興に向け、振興作物等の栽培促進や、森林環境の維持管理が必要です。
- 水産業については、複合災害前は沿岸漁業が盛んで、富岡川では秋の風物詩としてサケの遡上が有名で、町内にやな場・ふ化場がありました。複合災害により被害を受けた漁業施設の復旧等は完了していますが、放射線量の影響等により、活動が制限されています。今後は、さらなる水産業の振興推進が必要です。
- 上記を踏まえ、農林水産業を持続的に発展させるためには、担い手の確保・育成および、付加価値を高めるための取り組みを推進していく必要があります。

▶ 政策指標

政策指標は、上記の目指す姿を達成するための指標の観点を「農林業活性度」、「水産業活性度」とし、毎年事業評価を行っていきます。事業評価の指標は下記指標例など指標の観点について達成度を測る指標をそれぞれ設定します。

指標の観点	行政評価に使用する指標例
農林業活性度	新規就農者数、耕作放棄地の解消面積、6次産業化事業数 等
水産業活性度	水産物の付加価値生産額、遊漁船活動件数 等

施策1

農林業生産基盤の強化

活気あふれる農業および林業の振興を推進します

農業の振興

主な取組

- 営農再開・新規就農の支援
- 生きがい農業の支援
- 用排水路の整備や農業用施設の利活用・維持管理
- 農業有識者による勉強・研修会の実施

農地の有効利用や
スマート農業の推進

主な取組

- 農地の保全、集約化、大区画化
- 耕作放棄地の発生防止及び再生利用の促進
- 農地の貸付・借受のマッチングの促進
- スマート農業や施設・設備の導入支援

振興作物等の
栽培促進

主な取組

- 関係機関と連携した栽培技術に関する指導体制の構築
- 生産者と販売者のマッチング支援や流通ネットワークの強化

森林環境の
維持再生・活用

主な取組

- ふくしま森林再生事業等による森林の持つ多面的機能の維持増進
- 関係機関と連携した地元産材の有効活用
- 林業再生に向けた実証事業等の実施

有害鳥獣による
農作物等被害の防止

主な取組

- 最新技術や広域連携による鳥獣被害対策の強化
- 鳥獣被害防止柵設置等への支援
- 有害鳥獣捕獲体制の充実



施策2

水産業の振興

海、川における水産業の振興を推進します

漁業(海、川)の
維持管理・活用促進

主な取組

- 漁業施設の維持管理
- 製品の安全安心の広報活動の強化

水産資源の再生
(海、川)

主な取組

- 水産資源の回復
- 水産資源と触れ合える機会の創出



施策3

担い手の確保・育成

農林水産業を持続的に発展させるため、担い手の確保・育成を図ります

新規参入の促進と 担い手の確保・育成

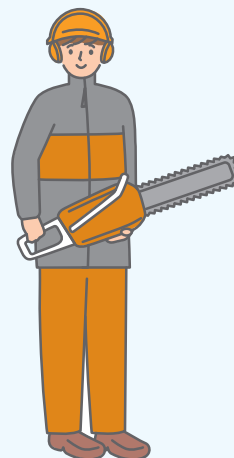
主な取組

- 新規参入者向けの研修の企画や技術支援の充実
- 担い手確保に向けた啓発、イベントの実施、研修の開催等
- 農業繁忙期に合わせたワークシェアリングの導入促進

農林水産業の魅力や やりがいの情報発信

主な取組

- 若者向けの職業体験の企画やインターンシップの実施
- 農林水産業の魅力を伝えるイベントやセミナーの開催
- PRコンテンツの制作



施策4

農産物、水産物の付加価値向上

富岡町産の農林水産物の付加価値を高めるための取り組みを推進します

ブランド化と6次産業化・ プロモーションの推進

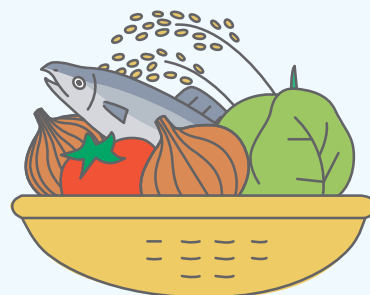
主な取組

- 6次産業化やブランド化、新たな特産品開発に対する支援
- 農林水産業の体験の機会の創出
- 国内外でのプロモーション強化と販路開拓支援

地産地消の推進

主な取組

- 学校給食での地元食材の利用の推奨
- 地元の生産者と消費者が直接つながる機会の創出
- 地域間の連携と協力の強化
- 観光振興と連携した地産品の消費拡大



6次産業化



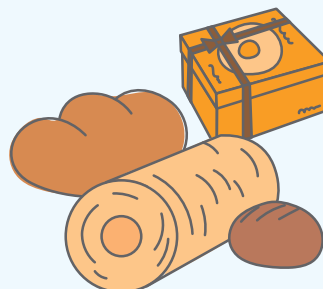
生産（1次産業）

×



製造（2次産業）

×



販売（3次産業）

TOMIOKA LOVE LETTER

I LOVE TOMIOKA!

富岡への想い。

地元で暮らす人も、
移住してきた人も、
ふるさとかから離れた人も。
みなさんが考える
富岡町のこれからの姿を
語ってもらいました。
それらの思いが叶ったとき
あなたが知らない富岡町の魅力に
出会えるかもしれません。





こどもからお年寄りまで集まり、
みんなで楽しく過ごせる場所にな
ったらいいな。



桜や川、海、山に囲まれて
のんびり暮らせるのも魅力的！



学生さんたちの
新しいアイデアも取り入れて、
もっと楽しい場所になるといいな。



もっと多くの人が
富岡に遊びに来てくれたら
うれしい！

富岡町に



近未来のモビリティが
できたりしたら面白そう！



通りすがりに
「おはよう！」って挨拶したり、
そんな何気ない日常っていいよね。



昔話や遊びを教え合うのも、
きっと楽しいんだろうな。



住む場所や買い物できる場所が
増えるといいな。

関わる みなさまから



障がい者教育を取り入れたり、
外国人が暮らしやすいようにしてさ、
誰もが住みやすい町にしていきたい。



こどもを預けられるような場所や
人が増えて、親が安心して頼れる
環境があるとうれしいよね。



SNSで富岡の魅力を発信して、
みんなに知ってもらえたら
うれしい！



地域見守り隊や交通旗当番も
復活させたり、防災訓練を実施したり
安全な町にしたいな。



アスレチックやグランピングを
充実させて、中高生の合宿も
誘致してファンを増やしたいな。



医療機関が充実し、
オンライン診療も活用して、
広域で連携できる体制を作りたいね。



福祉施設も整備して、
戻ってきた人が安心して
暮らせるようにするのが大切だね。

10年後の 未来の



富岡川沿いに
ウォーキングロードができて、
町全体がきれいになるといいな。



みんなで桜の後継木を育てたり、
ツツジを再生したり
自然にあふれる町がいいよね。

富岡町へ おくる



震災前のように
健康イベントが再開されるような
健康づくりが盛んな町に！



公園でイベントを開催して、
たくさんの人が集まる
にぎわいのある町にしたいな。



みんなが集まれる遊び場や
学びの場があるといいな。



空き地にはアート作品を飾って
町全体を楽しい雰囲気になりたいな。



桜や海、スポーツなどの
地域資源をフル活用して、
たくさんの人でにぎわう町にしたい！

たくさんの 想いが綴られた



挑戦を応援する環境づくりも進めて、
みんなが集まる
楽しい町にしていきたい。



都内ではできない、
きめ細やかな教育をアピールして、
子育てしやすい町にしたいな。



大学生が講師となって
こどもたちが学べる環境が
整っているといいね。



自転車の町として
回遊ルートが整備されて、
健康づくりが進むといいな。



放射線リスクの理解を深めて、
地域全体で風評を
払拭していきたい。

ラブレターです。



海水浴場とか絶景ブランコとか
自然を楽しむアクティビティも
充実させたいな。



大倉山など里山を楽しむ
トレッキングコースが
整備されるといいよね。



買い物できる場所とか
遊べるところが欲しい！
道の駅やゲームセンターもね。



アスレチック、
バスケットボールができる場所が
あるといいな。

富岡町の 未来を担う



海や空き地で
もっとイベントをやってほしい！



町民みんなでゴミ拾い、
みんなで草刈りをしよう！



町を花いっぱいにしたり、
音が鳴る道があったり、アートな
街並みが広がるといいな。



空き地に、コーヒー屋さん、
パン屋さん、ケーキ屋さんか
できるといいな。



僕らの集まる場所が欲しい！
学割がきくお店があるといいよね。



24時間空いているような
お店があるといいな。



イルミネーションで
町や商店街が明るくなるといいな。



町を運営する会社を興して、
イベントなどのスポンサーを
引っ張ってくるのはどうかな。



アクションショーとか花火とか、
楽しいイベントが
いっぱいあるといいな。



観光の拠点となる
場所があるといいよね！



中学生からの
メッセージです。



富岡の名物として
富岡バーガーを開発したらどうかな。



星空のきれいな町として
PRして人を呼び込みたい。





町民の皆さまからは町の未来を
良くしたいという熱意を感じました。
その輪が広がり、より活力に溢れる
町になることを願っています！



わずかな時間でしたが、心の底から
富岡町を訪れて良かったと感じています。
町内外から多様な想いが集まり、富岡町の
未来を鮮やかに彩ってほしいです。



豊かな自然や歴史・文化がある富岡町で、
これからも優しさと熱意に満ちた
町の方々が輝き続けられることを
願っています。

富岡町を訪れた



富岡の桜が毎年美しく咲き誇るように、
この町が今後も新たな歴史を重ね、
明るい未来を咲かせていくことを
心から願っています。



富岡町は未来のために行動を
起こし続けられる素晴らしい町だと
感じます。そんな素敵な町の可能性が
無限に広がっていくことを願っています。

大学生・大学院生の



行ったことがなくても、「行きたい、知りたい」と
心から思えるまちです。そんな富岡町の
恵まれた風土と温かみのある雰囲気が
より多くの人々に伝わることを願っています。



豊かな自然や伝統文化、町民の方々の
温かさなどの魅力が多くの人に伝わり、
より笑顔と活気であふれた町になる
未来が楽しみです。

みなさんから



自然豊かで活気のある
魅力的な町だと感じました。
さらに成長する富岡町が楽しみです！



まちづくりと復興に懸ける想いがとても
熱い場所でした。そんな情熱に溢れる
人々と共に歩む富岡町は、きっとたくさんの
人が集まる温かい場所になると信じます。



外から来た大学生にも明るく接してくれる
町の方々とこれから成長していく
富岡町を知り、どんな町になって行くのか
楽しみです。また来ます！

富岡町への



一度訪れると「また行きたい!」と
思えるような町です。富岡町の良さが
もっとたくさんの人に知ってもらえることを
心から願っています。



わずかな滞在時間の中でも、
富岡にはどんな困難にも負けない力強さが
あると感じました。富岡が再び
活気溢れるまちになることを祈っています。

想いが



海と桜が爽やかなふれあいで溢れる
温かいまちです。
心豊かになれる場所で
あり続けてほしいです。



いつか子どもができれば、
夜の森の桜を見せてあげるのが
僕の夢です。
これからも、富岡とともに。



一度訪れると、離れていても
「今、町はどうなっているのかな」と
常に気かけずにはいられません。



富岡の美しい景色が、
まちに住む人々の誇りだと思います。
新たな歴史を歩む富岡町の未来を、
一緒に見ていきたいと思っています。



富岡町で過ごした時間は
私にとってかけがえのない財産です。
町の魅力がより多くの人々に
伝わるよう願っています。

届いています。

いつまでも
ここで暮らしていきたい
ずっと関わりを
もっていたい町を目指して
一緒に未来を
描いていきましょう。



富岡町のこれからのことを考えるために、
町民のみなさんと一緒に、
これまでの富岡町を振り返り、課題を見つめ直し、
目指すべき未来を話し合いました。

そこでみなさんからいただいた
たくさんのアイデアをまとめて誓いを立て、
この誓いをもとに、私たちはまちづくりを進めていきます。
その道のりは平らではないかもしれませんが、
それでも“地元”を愛するみなさんと、
お互いに手を取り合って歩んでいきたいと思います。



一人ひとりの幸せで、 みんなの未来を創るために

富岡町災害復興計画(第三次)策定に係る骨子案検討委員会 委員長

富岡町災害復興計画(第三次)政策化会議 議長

小沢 喜仁(福島大学共生システム理工学類 名誉教授・客員教授)

この計画の策定にあたっては、町民の皆さまをはじめ多くの方々にご参画いただきました。令和5(2023)年度において、計10回に及ぶワークショップでまちづくりへのご意見やアイデアをいただき、これをもとに骨子案検討委員会で復興計画の基本的な理念や基本計画など骨子案(基本構想)を作成しました。令和6(2024)年度には、町の産業に関わる代表者、役場の各部局担当者などで構成する政策化会議において、骨子案と各種施策との照合を行いながら計画案を作成し、計画案に対して延べ280件を超えるパブリックコメントをいただき、ご意見を踏まえ、とりまとめをいたしました。

また、公益社団法人福島相双復興推進機構が富岡町で開催した「住民主体まちづくりワークショップ」にも参加させていただきましたが、ここでも多くの町民の皆さまから“まちづくりに対する熱い想い”を受け取ることができました。このように、本計画策定においては町民の皆さまを中心に幅広く、かつ丁寧な議論と検討が行われたことに大きな敬意を表します。

東北地方太平洋沖地震および原子力災害の発生から14年が経過しました。富岡町における災害復興と町民の帰還はまだ道半ばという状況にあると考えています。一方で、国内外の社会的状況は急速に変化しており、災害復興計画を実施するときには、この状況も踏まえさらに課題解決を目指して、各施策に関わる取り組みを進めていく必要があると認識しています。

最近の産業においては、イノベーション(新結合)による新たなモノづくりとコトづくりが求められています。「新しさ」は、明らかになっている課題の解決に向けて、2つ以上の高い取り組みを組み合わせ、それぞれの特徴を生かしながら、新たな機能やサービスを生み出すことから生まれます。このためには、人々の連携や協働が不可欠であり、この場においては、参集する人々や事柄の多様性がことさら重要となります。

町が10年後に目指すべき姿として「一人ひとりの幸せで、みんなの未来を創る 富岡町」を掲げています。これまでの歴史的、文化的な豊かさをもとに、さらに新たな連携と協働により、未来志向の復興と創生が一つずつ実現されることを期待しています。